

平成 2 9 年 度

「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）



阿久比町総務部政策協働課

目 次

□宮津公民館（横松、萩、宮津）	1
□英比小学校体育館（板山、福住、福住園高台、高根台）	1 5
□白沢区民館（白沢、白沢台、メイツ巽ヶ丘）	1 9
□中央公民館（坂部、卯之山、阿久比団地）	2 8
□草木公民館（草木）	3 3
□勤労福祉センター（阿久比、棕岡、矢口）	3 8
□植公民館（高岡、植、大古根）	4 3
□宮津団地老人憩の家（宮津団地、宮津山田、陽なたの丘）	4 7

平成29年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月9日（火）午後7時～午後8時48分
□会 場	宮津公民館
□参加者	町側11人、地区側21人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

皆さんこんばんは。本日はお仕事の後、大変お疲れのところ、未来づくり懇談会にご出席いただきありがとうございます。今日は平成29年度初めての未来づくり懇談会でありますので、なかなか話もまとまっていないかと思いますが、よろしく願いいたします。最初に私からあいさつと重点施策等の予算の説明をさせていただきたいと思います。

まずもって、新庁舎及びホール等の建設におきまして、無事に建設できましたこと本当にありがとうございます。また4月8日には、この3地区からも山車を出して祝い込みをしていただきました。またお餅をついていただき、完成記念事業も無事終わることができました。これもひとえに町民の皆様方の温かいご理解と、そしてこの新庁舎ができた喜びというものを、町民みんなで分かち合い、そして喜び合いたいという気持ちが伝わったものと考えております。本当にどうもありがとうございました。そこで新しくあのような形で出来上がり、阿久比町が新しいステージへ進んでいく姿を、資料の1ページに平成29年度の町長施政方針という形で書かれております。こちらは時間がございませんので読んでいただければと思います。

重点施策等の予算の話に入る前に、皆様方に今の日本の状況、また阿久比町の状況について少しお話しさせていただきたいと思います。今、私どもが政策的に行っている中で、社会というものが、少子高齢化ないし超少子高齢化という言葉が使われておりますが、やはりこの少子化の問題が、今おかれている日本や今から日本が進んでいく30年、40年、50年に、一番根底にあるという位置付けを私はいたしております。それと同時に、人口の増減について、それから人口を構成している年代別の構成数というものが、どのような形になって、この日本という社会を作っているかということ、絶えず念頭に置きながら、今この時期にどの政策を行っていかなくてはいけないか、限られた予算の中で行ってまいりました。

昨年度までは、新庁舎建設における多額な予算を組んでおりましたので、ずっとこのところ右肩上がりで、100億を超す一般会計でした。今年からは建設事業が終了したことにより、15%ぐらい下がり、本年度は90億2,900万円の一般会計予算になりました。つまり、阿久比町が町内への福祉から建設、教育まで全てのことを行っていくのに、90億円という予算のレベルというのを私たちが押さえておかなければいけない金額と思っております。そして、話が戻りますが人口減少が起きてきてどういう風にして、今から日本は運営していかなければいけないかと考えたときに、やはり、経済というものがなぜ必要なのか、食べていくためにもなぜ必要か。住民の皆様方の暮らしや生活を幸せにし、生

活を守るために、どのようにして日本は経済で富を生み分配するか。

基本となるのは、人口が多い少ないというよりも、その中でどのような形で自分たちの暮らしの水準というものが保てるか。例えば、世界の中で先進国と言われるためには、どの水準の生活を送っている国が、世界の中で先進国と言われるのかということを考えて進んでいかなければならないと思います。人口が減ってきたら減ってきた中で、それに見合った形で、経済活動を進めていくことになった時に、どうしても経済というものを活性化していかなければいけない。それと同時に、15歳から64歳までの生産年齢人口、これが今から急激に減ってくるわけですが、これに見合った形にするには、今からの人口構成の中で、高齢者の方にも少しでもお仕事に就いてもらわなければいけないでしょうし、女性の力、女性の方にも家庭の中に入っているだけでなく、お仕事にも出て行ってもらわなければいけない。そう考えたときに、そういう社会を作っていくためには、行政はどのような形をとって、住民サービスをすれば、そういう形ができ、そして、その中で外へ働きに出るようになった女性の方たちが、どのような形で富を作って日本という社会の中で貢献できるのか、ということを考えて進んでいかなければいけません。日本は人口減少に入ったわけですので、どうして行くのか、このあたりはヨーロッパの今までの経験を十分研究する中で、私たちは進んでいかなければいけないと思っております。

そして、今阿久比町がどうなっているかと申しますと、人口でいきますと、4月1日現在で28,671人、10,425世帯、大雑把に言って10,500世帯の阿久比町にはボリュームがあります。まだ若干ですが人口も止まらずに伸びているというのが現状であります。そういう中であっても、やはり今言ったように女性の方が働ける場所、それから働くために自分のお子さんを、生まなくして働いてもらっても、なんら日本の将来は明るくないわけですので、子どもさんを育みながら、なおかつ、外へ出て行って社会貢献のお仕事等もできるということを考えると、どうしても阿久比町は今から、今までもかなりの予算をつけてまいりましたが、子育てというものに対して、予算を組んでいかなければならない時が来ているだろうということで、ここ数年、子育てや教育の方へ力を入れてまいりました。

時間がないので、平成29年度の重点施策に移らせていただきます

○放課後児童健全育成事業4,829万円。これはJA東部支店を購入して放課後事業の拠点をつくることで、改修に入っております。

○保育所運営事業5億4,676万円。これは町立が4園、特に東部学区におきましては、宮津と東部保育園があります。今まではお寺がやっていた私立保育園が3つしかありませんでしたが、そこにSAKURA保育園とひなた保育園ができました。

○子ども医療費支給事業1億8,567万円。中学校卒業までの医療費の無料化も子どもが増えるにしたがって予算が伸びております。

以上が子育て部分での予算として、今年度予算化しております。

○民生委員協力員事業79万円。これは新制度でありまして、民生委員さんの仕事が増えているため、協力者を付けたい場合に町から報償費を出します。必要ないところには協力員を付けません。

○ごみ処理事業4億3,018万円。世帯数、人口とも増えていますので、予算も増えております。昨年度までは8,000万円ほど少なかったのですが、今年は大府で建設中

のごみ処理施設の予算も含まれております。今後もごみ処理で4億円を超える予算が必要ですので、できれば皆様のご協力のもとで、何とかごみを減量していただきたい。東部知多衛生組合の2市2町は、今まではごみ処理費はいただきず、ごみ袋代だけをお願いしておりましたが、ごみ処理費用をごみの袋代に加えようという研究会ができ、将来はごみ袋代が上がると思われます。

○県、町植樹祭事業920万円。今度の土曜日に阿久比町で初めて愛知県の植樹祭を行います。また偶然にも2年後に全国植樹祭が愛知県に来て、そのためのキャラバン隊の出発式やその時のテーマなどが、この13日に阿久比町で発表されることを、県から聞いておりますので、県の関係者や大勢の方をお迎えし、新しい庁舎で植樹祭を行っていきたいと思います。

○女性消防団活動事業124万円。9名の方に加入していただきました。阿久比町で初めて女性消防団を結成することができました。今後の期待は大きなものがございます。

○住民税1%町民予算枠事業1,431万円。今までどおり行います。

○道路、橋梁補修事業8,612万円。計画的に、長寿命化計画の下に進めております。次の2つが新しい事業で、これは今からの阿久比町の将来にとって大きなものになると思います。

○愛知県有料道路コンセッション関連事業1,034万円。愛知県から担当の職員を建設部に一人派遣していただき、コンセッションの関連事業を進めていくために2年間一緒に頑張っていきたいと思います。

○給食センター基本計画策定等事業3,789万円。大変お金の掛かる事業で、ざっと15億から18億の予算を作っていかなければならないだろうと思います。現在の給食センターは老朽化し、耐震化もできておりません。それと、子どもの数が増えてきて4,500食を作るためには、現在の場所では無理であるということになりましたので、新たな給食センターを設置しなければなりません。なんとか今のところを補強しながらでもやれないかと教育委員会といろいろ検討しましたが、給食は止めることができません。夏休みの1カ月の間に工事ができるわけでもありませんので、別のところへ造る事になりました。今考えているのは中学校の横ぐらいのところへ造りたいと考えておりますが、その基本設計等に今年から入ります。

今申し上げたのが、今年度の重点施策ですが、要約しますと①子どもが増加しているためお金が必要なこと②高齢者が増えてきて福祉のために人的支援も投入しながら地区の方たちと見守っていく体制づくり③ごみが非常に増えて予算に負担が掛かっていること④愛知県有料道路コンセッション事業が、阿久比町の産業と観光を含めた中で将来の大きなものになること⑤給食センターのことが今年の予算の大きなところとなります。

(高齢化について)

各地区の高齢化率、少子化率について説明。

3. 懇談会テーマと質問事項等についての主旨要約

①顔の見える地域づくりについて(配布資料に基づき総務部長説明)

皆さんこんばんは。総務部長の野崎です。よろしくお願ひします。

今回のテーマである「顔の見える地域づくり」とは難しく考えないでください。「地域、地区内の住民同士のつながり」、あるいは「近所同士の支え合い、助け合い」を、これからどうしていくのか、という程度でご理解をお願いします。

このテーマについて、最初に皆さんに考えていただきたいことは、昨年4月にも熊本で大きな地震がありました。市役所がつぶれ、余震が続く中、避難所に多くの方が避難し、地域の皆さんが支え合い、助け合いながら避難生活を送る状況をテレビ、新聞などで見られ、まだ記憶にも新しいと思います。

この地域でも、南海トラフ巨大地震の発生が懸念されています。地震学の権威で、元京都大学の総長で、現在、京都造形芸術大学の学長をされています尾池和夫さんは2038年頃に、南海トラフの巨大地震が起きると予測し、「備えあれば憂いなし」と警鐘を鳴らしています。町として、備えをしっかりとしなければいけない、また、住民の皆さんにも備えていただかなければいけないと考えています。

そこで、南海トラフ巨大地震などの災害時における地域での助け合いの在り方や災害に備えるために、地域防災力をどのように強化していくかということについて、今一度皆さんに考えていただきたいということで、今回の「顔の見える地域づくりについて」というテーマを上げさせていただきました。

(資料「阪神・淡路大震災時に生き埋めや閉じ込められた際の救助」について
データを紹介)

災害医療分野には、生死を分けるタイムリミットとされる「72時間の壁」が存在し、被災直後に救助できないと生存確率が極端に低下します。大震災発生時は全員が被災者であり、直後に救助活動ができる近所・隣人の力は絶大であります。被害を最小限にするためにも、「公助」に頼らず、地域住民相互による「共助」や、自ら身を守る「自助」が不可欠であります。

皆さんがお住まいの地域では、お互いに救助することができるでしょうか。また、近所にどんな方が住んでいるかを把握されていますか。反対に、ご近所の方は皆さんのことをご存知ですか。

(資料「東日本大震災前の自治会・町内会などの地縁活動と支援者比率・受援者比率」について説明)

地域防災では、自治会や地域コミュニティ組織などの自主防災会が、災害発生時の「共助」の中核となり、かつ、「自助」を行う住民それぞれを直接・間接的に支える地域の基盤として、普段から地域に住んでいる人々の参加が基本となります。お年寄りや避難行動要支援者が、どの家に住んでいるか、それらの方々をどのように安全な場所へ移動することができるかなどの具体的な情報を把握することも、自主防災会として重要なことです。

昨年の町防災訓練では、安否確認フラッグの掲示と地区内での避難行動要支援者の情報共有を行っていただきましたが、安否確認フラッグの掲示率は町全体で56.5%でした。

この数値には、町は危機感を感じており、今年の防災訓練でもこの安否確認フラッグの掲示訓練を行う予定をしております。中には、フラッグを無くしたという声も聞いていますが、再度の無償配布はできませんので、7月から1枚300円で有償配布を始めます。

町としては、安否確認フラッグの全世帯掲示を目指していますので、自主防災会の補助事業にあります防災資機材の最優先品目に位置付けました。3分の2の補助ですので、自主防災会であれば、1枚100円の負担で手に入れることができます。

地区内の全世帯掲示に向けた準備、取り組みをよろしくお願ひします。ちなみに、資機材の申請期限は、7月末日ですのでよろしくお願ひします。

(資料「新潟県糸魚川市大規模火災出動状況」について説明)

(資料「阿久比町消防団員の数等」について説明)

ここで特に大きな問題になっているのが、第2分団で、担当地区が8地区と多いにもかかわらず、定数15人のところ、実団員数5人という困った状況になっています。加入は随時受け付けていますので、第2分団の地区で知り合いがいましたら、消防団への加入をぜひ勧めていただきますようお願ひします。

もう少し消防団のPRをさせていただきますと、資料には載っていませんが、この4月から女性消防団員9名を採用しました。消火技術の訓練はもちろん行いますが、特に子どもたちへの消火、防災教育に力を発揮していただこうと考え、9月頃から保育園、小学校などで活動できるよう、現在準備を進めているところです。要望があれば、宅老所やサロンへも出向きますので、声を掛けていただきたいと思います。

顔の見える地域づくりは、地震、火災のような非常時だけの問題ではありません。子どもを狙う犯罪や事故、高齢者への還付金詐欺や孤独死など、中にはちょっとした地域の見守りや支え合いがあれば防げるものがたくさんあると思います。これらは、実際に起こっている社会問題ですので、警察や役場などと連携しながら、地域ぐるみで子どもやお年寄りを見守っていただきたいと思います。

町としては、地域福祉に関する見守り体制の強化として、これは民生部長の所管になりますが、先ほども町長がお話したように、地域の身近な相談役である民生委員さんの業務が大変多く、負担が大きいことから、民生委員さんの負担軽減と地域福祉の新しい人材の掘り起こしを目的に、今年度、町独自で「民生委員協力員」制度を始めました。民生委員さんと協力連携しながら、地区内の見守りを行っていただこうと考えていますので、地区の皆さんもご協力をお願いします。

町内には、100世帯から1,300世帯を超す大小さまざまな23の大字・自治会があり、それぞれが独自の運営を行っています。コミュニティという単語がありますが、ネットで調べると「共同体」「地域社会」「目的を共有している仲間」とあります。

コミュニティ活動は、人々が力を合わせて、自分たちの住む地域を自分たちの手で住み良くしていこうとするととても大切な活動です。一般的に、地域づくりを進める組織として「地域コミュニティ推進協議会」などがありますが、これについての画一的な定義や区域の取り決めはありません。子どもたちの行動範囲である小学校区を単位に進めている地域が多く、本町の南部コミュニティと東部コミュニティも小学校区を単位に活動しています。

昨年設立した東部コミュニティ推進協議会の特徴は、子どもから高齢者まで、多様な世代を巻き込んだふれあい活動を盛んに行っているところだと思います。安全・安心部会、いきいき福祉部会、わくわく教育部会に分かれて、各々が精力的に活動しているところが素晴らしいと思います。昨年の12月10日に開催された「ふれあい広場」にはフリーマーケット、サロン、餅つき、餅のふるまい、東部小学校の金管バンドによる演奏など子どもから高齢者まで世代を超えて交流することができ、また、小学校の先生方も加わり、大変にぎわったイベントでした。

今年度は住民税1%町民予算枠制度を活用して「なんでも交換市 in 東部+ふれあいイベント！」の開催や、新たに「陽なたの丘サマーフェスティバル」などを行うと聞いておりますが、引き続き楽しいイベントを頑張ってください、地域の交流を進めていただきたいと思います。

(資料「小学校区別の人口ピラミッド」について説明)

一般的な広い意味でのコミュニティ活動を少しご紹介しますと、防災訓練、防犯パトロールなどは、多くの大字・自治会がすでに実施しています。一人暮らし高齢者宅を訪問する「ふれあい訪問」や刃物研ぎなどの特性を生かして、ご近所さんが支え合う「お助け活動」は、高齢化社会の進展により、今後ますますニーズが増えていくと考えます。

子ども会の活動は、子どもたちの成長過程における人間関係を形成する重要なものです。地区の祭礼は、地域の伝統や文化を守っていくためにも大変重要であり、無くてはならないものですが、後継者の確保に苦慮しているのではないのでしょうか。これらのコミュニティ活動は、顔の見える地域づくりのための重要な取り組みで、多くの地域住民の皆さんが携わっています。

問題なのは、「コミュニティ活動は、付き合いが面倒で厄介なものだから関わりたくない」という人が増えていることだと思います。人は独りで生きていくことは難しく、周りの人とつながり、認め合うことで、安心して生活できます。子どもや高齢者、障害をお持ちの方はもちろん、周りの人たちのちょっとした気遣いや見守りの中で、支え、支えられながら日々暮らしています。この当たり前のことを忘れかけている人が増えているのではないのでしょうか。

現代社会では、職場と家庭が人間関係の中心となり、近所の人々とのふれあいは希薄になってきたと言われております。また、まちの安全は警察や消防が守ってくれ、煩わしいことは公共サービスに任せておけば「自分は独りで生きていける」と思っている人もいます。

昨今の震災で、大災害時には公助である役場は当てにできないという事が分かっていたかだと思います。公共サービスが途絶えたとき役立ったのは、先に紹介しました消防団員の活躍や、外部から駆け付けたボランティアの支えであり、何より近所同士の見守りや支え合う力、お互いが助け合う「共助」であります。

高齢者の問題、子どもの問題、その地域特有の問題など、地区ごとの課題は異なりますが、その課題を解決するために、地域内の住民同士がお互いに交流を深め、地域でなければ解決できないさまざまな問題に対して、住民一人一人が自分の問題として受けとめ、みんなの力で解決していくことが重要です。

向こう三軒両隣という言葉がありますが、まずは、近所同士のつながりをどのように確保していくか、そのつながりを持つために支障になっていることや課題は何か、皆さんと一緒に解決方法を考えていきたいと思えます。

私からの説明は以上です。よろしくお願ひします。

(①について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約)

質問) フラッグを300円で有償配布するというのは、以前防災交通課長から聞いていましたが、先ほどの話で自治会だと100円というのはどういう意味でしょうか。(宮津)

答) 自主防災会の資機材購入については、3分の2を町が補助しており、資機材の最優先品目で、まずフラッグを自主防災会で持っていない家に配置していただきたいです。他の資機材をそろえてもらうよりも、まずはフラッグを。個人で買えば300円ですが、自主防災会の補助事業を使っただけであれば、100円で手に入るということです。

去年行った訓練のときに、こちらの地区はフラッグの掲示率があまり良くなかったので、一生懸命お願いできないかと思っています。今年の防災訓練でもフラッグの掲示というのは続けていきたいと思っておりますので、ぜひ今年の防災訓練の前に持っていない世帯が分かるように、例えば事前に地区の訓練で、フラッグの掲示を行っていただくなど、よろしくお願ひしたいと思えます。(総務部長)

関連質問) 去年の安否フラッグの掲示率のお話がありましたが、分母が問題で、世帯での掲示率ですので、数字のマジックがあると思えます。宮津の掲示率が良くないということは事実かもしれませんが、そのあたりをもっと調整して、信憑性のある数字を捕まれたほうがいいと思えます。例えば宮津だと同居世帯が多く、それでも1件で、アパートなどで数字がぼやけてしまう。私は私なりの掲示率を出してみると7割ぐらいになります。分母が各地区ばらついてしまうとデータとしては良くないと思えますので、数字が良ければ良いという話ですが、あまりベースが悪いとデータにならないと思えますので、調整していただきたいです。(宮津)

答) 貴重なご意見ありがとうございます。数字がひろえるかどうか、なかなか難しいと思えますが、掲示率の出し方についても少し検討させていただいて、地区において総世帯何件中何件というように、一度検討していきたいと思えますので、よろしくお願ひします。

(総務部長)

②健康で元気に暮らすために(民生部長説明)

皆さんあらためまして、こんばんは。私は、昨年につき2回目となりますが、去年は、「高齢者と地域のつながり」というテーマで皆さんと懇談させていただきました。その成果もございまして、新たに6地区でサロンを立ち上げることができました。ありがとうございます。

さて、今年は「健康」をテーマに「健康で元気に暮らすために」と題しまして、懇談を

したいと思います。一言で健康と言っても、さまざまなケースがあると思います。

例えば、食生活の改善による健康づくりもあれば、汗を流し筋肉増進が目的の健康づくり、また、無理なく体に負担とならない軽い運動による健康づくり、そして、人によっては心のケアを求める健康づくりもあるかもしれません。人によって、また、生活環境によって、さまざまなスタイルがあると思います。

今夜の懇談会を通じて、皆さんが思う健康づくりとは何か。また、これからの健康づくりのきっかけにいただければと思います。今回は、話の途中で皆さんに問い掛けをしますので、皆さんからご意見をいただければ幸いです。よろしく申し上げます。

(人口減少について)

人口減少についてお話ししたいと思います。先ほどの町長の話にもございましたが、本町は陽なたの丘などの開発により一時的には人口増となりましたが、いずれ必ず、少子高齢化に伴う人口減少は、ジワジワと来ます。ここであらためて、全国レベルでの数値を申し上げますと、この4月に厚生労働省から将来推計人口が公表されました。その記事が新聞にも広く掲載されておりましたので、ご覧になられた方もいらっしゃると思いますが、その記事によりますと、平成27年(2015年)の実績で総人口1億2,709万人いる日本の人口が、50年後の2065年には、1億人を切って、8,808万人となり、たった50年間で約3,900万人もの人口減少があると推計されています。

また、高齢化率は、平成27年では、全国平均26.6%、阿久比町では25.5%から50年後には、38.4%と12%も増加すると推計されています。また、その逆に、生産年齢人口といわれる15歳~64歳と年少人口といわれる0~14歳の人口が現在の人口の6割弱まで減少すると推測されています。

昨年の暮れに私は、東京に出張して元地方創生大臣である石破茂さんの講演を聴く機会がございました。その講演のテーマも「人口減少」でしたが、そこで石破さんが言ってみえた事が興味深かったのでお話しします。

その時、石破さんが用いたデータは、平成25年(2013年)のデータに基づき、出生率は1.43%。死亡率(平均寿命)は、男性は80歳、女性は87歳というデータを基に、最近の若い女性たちの晩婚だとか、男女共に独身志向の方が非常に多いということを加味して、このまま進みますとどうなるか。石破さんのデータによりますと2013年に約1億2,700万人の日本の人口が、約80年後の2100年には半数以下の約5,200万人まで減少すると言っておられました。

この人口は、日本の大正時代当時の人口に相当するそうです。ただし、当時と現代では、何が違うかと言いますと、お分かりだと思いますが、人口構成が全く違うということです。今の真逆で大正時代は若者層といわれる年齢層、先ほど言いました生産年齢人口や年少人口の構成が最も多く、その代わり高齢者の比率が低かったといわれています。当時は、まだまだ長生きができない時代だったかもしれません。人口が5,000万人でも若い世代が多いことから、時代としては勢いがあるイメージではないでしょうか。

このように、自然動態で人口は減り続けるという状況を、まずは認識しなければなりません。そこで子育てがしやすい町づくりや、いつでも、どこでも健康づくりに触れ合える環境をつくることも大切なことではないでしょうか。

そこでもう一つ、阿久比町民の健康状況が分かるデータを用いてお話ししたいと思えます。今から用いるデータは、昨年、国保年金係が策定しました「国民健康保険データヘルス計画」からの抜粋となります。

このデータヘルス計画は、国民健康保険加入者の過去のデータや現状を分析し、これからの町民の健康増進に役立てるための計画となります。加入率は町民全体の約23.4%の方のデータとなりますので、町民の大まかな傾向の目安として捉えていただければと思えます。

始めに、平均寿命と健康寿命についてのデータを紹介します。平均寿命は、お分かりだと思いますが、先ほどのデータでも言いましたが平均寿命は、男性は80歳、女性は87歳でした。また、健康寿命とは何か、お分かりだと思いますが、確認のため申し上げたいと思えます。健康で活動的に暮らせる期間のことです。他の言い方で言えば、日常生活に制限のない期間のことで、要するに看病を必要とする病気とか介護等の支援を受ける期間を差し引いた、自立して健康的な状態で暮らせた期間を健康寿命と言います。

それでは、阿久比町と愛知県の平均を比較したデータを見ますと、平成27年度実績で阿久比町の男性の平均寿命は80.2歳、愛知県の平均は79.7歳です。また、女性の阿久比町の平均寿命は、86.3歳で愛知県の平均は86.2歳ですので、男女ともほぼ同じような平均寿命となっております。

また、今度は健康寿命を見ますと、やはりぐっと下がります。阿久比町の男性が65.8歳で県平均では65.7歳、また、阿久比町の女性は67歳で県平均は67.1歳とほとんど男女とも変わりはありません。

ここで、皆さん健康寿命が65歳と聞いて何か感じませんか。そうです。65歳というのは、介護保険の第1号被保険者の年齢です。やはり、65歳を過ぎると体のどこかに何らかの支障が出始める年齢だということです。現役時代の不摂生が65歳を過ぎると現れるケースもあるかもしれません。平均寿命と健康寿命の差というのは、短いほど健康的な期間が長かったこととなりますので、皆さんも健康寿命を延ばす努力をしていただくことが大切だと思います。

次に、主な死因別の死亡割合を申し上げますと、やはり一番多いのは「癌」で亡くなる方で、全体の3割近く占めております。三大生活習慣病と言われます、癌、心疾患、脳血管疾患が全体の約6割を占めています。これは、阿久比町というより日本人全体にイえる傾向だと思います。医学の進歩とともに平均寿命は、おそらく延伸するでしょう。先ほどの新聞記事によりますと2065年の平均寿命は、男性が80歳から50年後には84歳、女性が87歳から91歳に延伸すると推計されています。ただ健康寿命は、私たち一人一人の意識がなければ、いくら周りが騒いでいても健康寿命の延伸は望めないと思えます。一人一人が健康意識を持つとともに、いつでも、どこでも、気楽に健康づくりに取り組めるような環境をつくることも必要かと考えます。

(②について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約)

問い掛け) ここで皆さんにお聞きいたします。皆さんの中で今、自分自身の健康づくりのために、何か続けていることはありますか。どんなことでも良いですよ。例えば、食事の

こととか。毎日気にして習慣みたいにやり続けていることがございましたら少しお話していただきたいと思います。いかがでしょうか。

ご意見がございませんので、指名してもよろしいでしょうか。〇〇さんいかがでしょうか。(民生部長)

答) 私はまだ65歳にはなっておりませんで、満でいくと63歳となり、高齢者と呼ばれていない年層なので、健康で当たり前といえば当たり前です。私は今お話を聞いていて、健康寿命が男性で65.8歳、結局、医療の進歩で15年くらい生かされてしまうと感じました。人間の寿命というのは、結局、65歳が限界ではないかと思いましたが、今のご質問で健康を維持するためには、年々いろんな工夫が発表されていますが、それによる延命などあると思います。私は個人的にはゴルフが好きで、月に4回ほどコースを回っておりますが、その間に週に1回ほど練習に行っております。今65歳が定年の年になりましたけど、私は61歳でリタイアしました。これからも二花咲かせようかと早期退職して2年経ちましたが、健康を維持するのは非常に大変だと思います。65歳でリタイアしていたら、もっと大変ではないかと思えます。もともと体を動かすことが好きなので、ゴルフをやるとか、前々から考えていた農業をやるとか夢を持っています。今その準備として勉強してまして、週に3日、4時間ぐらい農場にパートへ行っています。うちの家内に言わせると、現役時代より体を動かすことが多いので、食欲も増しましたし、健康になりました。(宮津)

問い掛け) 健康の秘訣について、〇〇さんは何かございますか。(民生部長)

答) 何もありませんが、一つだけあげるとすれば、夜寝る前には絶対ものを食べない。そのぐらいで、あとは何もやっていません。あと、自転車と演説ぐらいです。(宮津)

(資料「健康づくり事業」「各同好会の活動内容」について説明)

(資料「すこやかトレーニングスクール」について説明)

(別資料「健康チェックと体力診断」「大人のためのニュースポーツ体験」について説明)

説明) 資料にはございませんが、冬の風物詩となりました、阿久比町の健康づくりマラソン大会がございませう。来年の年明け早々に開催されますが、マラソンブームの中、年々参加者が増えております。昨年は雪で中止になりましたが、一昨年は1,200人ほど参加しております。この健康づくりマラソン大会の良いところは、ジョギングの部から競技の部まで、9種目ものコースがあり、小さなお子さんから大人まで、幅広く参加していただけるマラソン大会となっております。マラソン大会までにしっかり体づくりをしていただいで、準備万端でマラソン大会に参加していただければと思います。

ここでもう一度、皆さんに質問させていただきます。例えば、こんな事をすれば地域で取り組める健康づくりになるとか、また町でこんなイベントをやってくれたら、みんなが参加できるのではないかなど、皆さんのご意見をお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。

地域ぐるみで行うことは非常に難しいと思います。誰かが音頭を取らないとイベントなどは行えないと思います。一つ提案がございます。子どもから高齢者まで一緒にできる健康づくりに何があると思いますか。ラジオ体操です。

九州の大分市で毎日行われている市民ラジオ体操があります。大分市を流れる大分川の河川敷で毎朝6時半から流れるNHKのラジオ体操を毎日やっています。ラジオ体操なら子どもからお年寄りまでみんな一緒にできます。昨年、阿久比に中京大学の湯浅先生が来られて、ラジオ体操を基本に忠実に真剣に行えば十分な基礎体力づくりにつながると言っておられました。宮津地区ならできるのではないのでしょうかと、提案としてお話しさせていただきました。

運動するのにルールはありません。いかに楽しく、そして毎日、無理なく継続できることが一番大切です。そして難しいことなどやる必要はありません。やり方によっては、運動器具などもいりません。日常生活のあらゆるところに運動器具はあります。毎日、食事をするのと同じように、わずかな運動で健康づくりはできます。そして、皆さんが元気になれば家族が元気になります。家族が元気になれば地域が元気になります。地域が元気になれば阿久比町が元気になります。

健康づくりは幸せづくりです。これは、間違いありません。本日は、ありがとうございました。(民生部長)

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

質問) 社会保険に両親が加入していない子どもは、自由契約児として扱われ、余裕があったら入れる。入った方もいるようですが、始めから遠慮して申し込まれないということがいろいろ言われています。そういう意味での隠れ待機児童はどのくらいいるのでしょうか。

(宮津)

答) 細かい数字は、今手元に用意しておりませんので、すいません。(民生部長)

提案) 私の家の前の土地は親戚の土地で、私が管理しています。学童保育や東部保育園の父母さんたちがよく利用されています。話を聞きますと、そういう意味での待機児童が非常にたくさんいて、町の方は知っているのか。こういう人たちが、働きたくても働けません。先ほど女性が働くという話にもありましたが、その点からいくと大きなネックになります。だから待機児童ゼロというのは、あまり理屈をつけなくて、本当に働きたい人の子どもを預かれるというのが本当だと思います。

区画整理の方とか団地の方とか陽なたの丘の方とお付き合いがあるので、私の意見として、学校や保育園のことは10年もすれば元に戻り、新しいものを造っても結局無駄になるということで、造らないように思えます。しかし、実際に今、困る方は本当に困っています。子どもさんが3人いる家も多く、議会でも理想の家庭は子どもが3人いると良いと言っていました。社会が変わり、家族を大事にする方が多く、陽なたの丘などではお父さんが子どもを抱いて散歩をして、お子さんを大事にされている方が多い。だから昔のような阿久比団地や福住園高台や宮津山田のように、みんな子どもが出て行ってしまって高齢

化になるというように、陽なたの丘や宮津の区画整理の方たちが必ずそうなると見る必要は無い。むしろこういう人たちが、阿久比に生まれて育ってよかったなと思ってもらえれば、戻ってくる人もいるだろうし入ってくる人もいると思う。

子どもが多すぎて保育をしてもらえないと、阿久比に来ることに二の足を踏むということも聞きます。先ほどから話に出ていますお年よりや子ども、特に子どもには無理をしても投資をするということを本気で考えていただきたい。今までの阿久比団地や白沢台の轍を踏まずに発展していくことを考えたら、子どもに光を当てることを町全体で考えることが大事ではないでしょうか。(宮津)

答) 貴重なご意見ありがとうございます。役場に持ち帰って検討させていただきます。
(民生部長)

要望) オアシス大橋から東へ下ってくる歩道はたくさんの方が利用されていますが、草と竹が非常に多く、県道だとは思いますが、定期的に草刈りをしてください。(宮津)

答) 県に伝えて、草刈りをしていただけるようお願いしていきます。また、町道でもそのようなことがありましたら、いつでも区長さんを通じてお知らせください。(建設経済部長)

質問) 宮津地区のことですが、公共用地の中に自分で木を植栽したりして庭のようにしている方がみえますが、歴代区長さんがいろいろとお願いしても聞き入れてもらえない。20年くらい所有していると権利が発生してしまうと聞きましたが、そういった対応を町としてどのように考えてみえますか。(宮津)

答) 後ほど個別に答えさせていただきます。(建設経済部長)

要望) 前区長として、大変困ったことになってしまったお話です。行政協力員として道路維持申請とか要望書とか内容によって回を分けてお願いするのですが、昨年さるこ公園に、私の前の区長からの申し送りもあって、さるこ公園に防災で活用できる休憩所とベンチの設置をしたいと私も昨年から2年連続で申請を出しました。係の方が現地を見ましようとな具体的な場所と寸法を測り、28年度は無理ですが29年度には予算化をして実施をするようにいたしますというお答えでした。私は地元の宮津区報で区民の皆さんにそのお話を報告したところ、29年度になって担当の方が今年度は予算が付きませんでしたと言われました。

各申請を出しますが、予算は限られていますので、できることとできないことがあることは承知しておりますが、受付の方の本気度を読み取らないといけない。私は今回現地確認などを行っているので、29年度に予算が付くと思っていました。予算が付いたか付いていないか、今回が駄目でも来年度申請すれば予算が付くのか、協議の結果を伝えてほしい。もう少しご配慮ください。(宮津)

答) おっしゃることは十分分かります。予算というものは、最終的には2月の終わりごろ

まで町長査定があります。予算を付けてあげたいのですが、予算も限りがあり、優先順位があります。

担当者も苦しい立場だと思いますが、私たちも優先順位を見て進めたいと思っております。担当者も査定室内のことは把握できませんし、はっきり分からないと思えます。なるべく予算が付くように努力していきますので、よろしくお願いします。(副町長)

追加説明) 私どもも県や国へ要望した時に、県や国の職員は絶対予算を付けますとは言いません。職員は現地まで行って、区長さんの要望をやってあげたいと思っております。しかし全体の予算の中で優先順位が変わってくることもありますので、職員の窓口対応については総務部長が教育していきますのでよろしくお願いします。(町長)

要望) 横松にある乙川からの環状線に、半田市側は中央分離帯に街灯のようなものが立っているのですが、阿久比に入ると無くなる。暗く、学生も通るので、中央分離帯に半田市と同等の街灯を付けてください。(横松)

答) 同じようなものはお金が掛かるので難しいと思えますが、歩道等に防犯灯などを付けることはできると思えます。電柱とかはありませんか。(建設経済部長)

追加要望) 防犯灯を26年度に申請しましたが、電柱に木とか枝があって取り付けができないと言われました。ですから、中央分離帯に付けるしかないと思えます。(横松)

答) 分かりました。防犯の担当と検討しますので、よろしくお願いします。(建設経済部長)

要望) 今すぐではありませんが、今までの話の中で、女性が仕事を続けるために保育園とか考えていただいているのですが、半田市もできましたし、名古屋市にもたくさんあると思えますが病児保育ができるところをつくってほしい。開業医さんもやっているのに、阿久比町自身がやるだけでなく、開業医さんに働き掛けをしてください。

私も3人の子どもを育てましたが、私は親や義理の親に見てもらえて、よほどひどい時は仕事を休んでいました。経過観察ぐらいの子どもをそういったところに預けられると、仕事をしやすいのではないのでしょうか。(萩)

答) 病児、病後児保育は議会でも質問がありました。現在、阿久比町にはありません。近隣では東浦や常滑に対応している病院があります。阿久比の方がそちらを利用しているのは確認しております。その時もいろいろ検討いたしましたが、阿久比町がやる場合もあれば広域でやる場合もありますし、病院単独でやる場合もあります。現在検討中で、今後の課題として取り上げさせていただきますのでお願いいたします。(民生部長)

5. 閉会あいさつ

今日は大変お疲れ様でございました。昨年からテーマを決めて懇談会を実施させていただきました。今回の2つのテーマにつきましては、皆様にとっても行政にとっても一番身

近で一番大事なことと思っております。特に、先ほども民生部長が「健康で元気に暮らすためには」をテーマで話をさせていただきましたが、誰もが健康で、気持ちに余裕がなければ楽しく元気に暮らすことはできません。これからも地区の皆様と連絡を密にして、健康づくりに向けた活動や地域づくりに努めてまいりますのでよろしくお願い致します。本日は本当にご苦勞様でした。時間になりましたので、これで終了させていただきます。ありがとうございました。（副町長）

平成29年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月10日（水）午後7時～午後8時57分
□会 場	英比小学校体育館
□参加者	町側10人、地区側16人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

3. 懇談会テーマと質問事項等についての主旨要約

①顔の見える地域づくりについて（配布資料に基づき総務部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

（①について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

質問）高齢者の食事のことについて、自治会で見守りをしているが、独居老人が非常にたくさんいる。個人で配食サービスを利用して1日1回取る方がいるが、費用がかさむので週に何回しかとることができないという方が多い。せつかく給食センターを作るので、高齢者の配食サービスに使うことはできませんか。（福住園高台）

答）これから給食センターの建設を検討していきますが、まず国が考えている給食センターというのはあくまで学校給食センターなので、基本的には小中学生の給食を作るところです。しかし、国も規制緩和などをしてきているので、今後高齢者のこともどうなるかは分からず、今後の課題だと思います。町が独自に実施するかどうかは、できるかできないかを検討しながら建設を進めていきたいと思っています。（教育部長）

質問）災害関係の話があり、あまり公助は期待できないということでしたが、特に高根台は町の外れにあり期待できないため、自主防災会は他の地区に比べて活発にやっていると思います。町から借りている可搬式ポンプ車などを利用して防火や防災の活動・訓練を定期的に行っています。また、役場から遠いので防災資機材や非常食を自治会の予算を使って自分たちで調達していますが、予算を減らすという話もあるので、例えば高根台にちょっとした防災倉庫を作ってもらい、そこに収める資機材や非常食は役場にあるものを分散して一部高根台に保管してもらえないかと思っています。（高根台）

答）ご承知のとおり阿久比町は、6kmメートル四方の中心に役場があり、防災倉庫は丸山公園にあります。資機材や備蓄品を分散するという話ですが、町としては歩いて何分という距離なので集約して持っていた方がいいのではないかと考えています。また、自主防

災会の育成補助金として資機材の補助があり、今のところ活用していただいているので、備蓄食料は対象となりませんが、そちらを活用していただきたいと考えています。

（総務部長）

関連質問) 歩いて何分ということはどういうことですか。高根台から歩いたら1時間ぐらいかかります。また、道路の通行止めも考えられるので、できるだけ前向きに検討してもらいたい。（高根台）

答) 歩いて1時間あれば運べる距離なので、何十kmも離れていて車で何時間もかかることはありません。道路の通行止めについてですが、知多半島道路は非常時の救急道路で、すぐに復旧することになっています。さらに町内の幹線道路のほとんどは、地割れで寸断されるということがあれば別ですが、建物が倒れて危険性が高いかということ、そんなには高くない状況だと思っているので、ご理解いただきたいと思います。（総務部長）

②健康で元気に暮らすために（民生部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

人口減少について追加説明（民生部長）

先日の日経新聞に、愛知県の月ごとの集計で、子どもの生まれた数（出生数）と、亡くなられた数（死亡数）を比較すると、死亡数が出生数を何カ月も上回っており、このままいくと2017年には、統計を始めて以来（1956年以来）初めて人口が減少するとの記事が掲載されていました。出生数から死亡数を引いた数で、自然増か自然減かを表す人口動態では、年間ベースは10月1日を基準にしており、今年3月までの累計が、すでに3,767人の自然減になっているそうです。4月1日現在では、昨年と比べ、すでに2,500人を上回っております。このままいくと、2017年は700人以上の自然減になる見込みで、元気な愛知県も人口減少の兆しが見えてきたという記事でした。

（②について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

問い掛け) 皆さんの中で、健康に関して毎日行っていることがあれば、食事のことなど何でも結構ですのでお聞かせください。（民生部長）

答) 妻：週3回カーブスに行っています。夫：阿久比のスポーツ村はあまり設備が良くないので、大府の健康の森に週3回ぐらい行っています。（福住園高台）

答) 食事に気を付けています。妻から野菜を取るようになわれ、お米を食べる前に野菜を多めに取るようにしています。（福住）

問い掛け) 先ほどは個人での健康づくりでしたが、町や地域で取り組める健康づくりの事業について、何かご意見があればお聞かせください。（民生部長）

要望) 健康づくりもやらなければいけないことですが、これから一番必要なのは認知症のことだと思えます。そのため、認知症予防の講座をもう少し開けないかと思えます。以前町で実施した際は、講座の募集をしたが20人ぐらいしか集まらなかったと聞いています。認知症対策の健康づくりをぜひ取り入れて、数回参加したら終了証書がもらえるようなシステムがあるそうなので、ぜひ取り入れていただきたいと思えます。(福住)

答) 認知症については、今年度、地域包括ケアシステムの作業部会の一つとして、認知症部会を立ち上げ、もっと掘り下げて対策していきたいと思っているのでよろしく願います。(民生部長)

(資料「健康づくり事業」「各同好会の活動内容」について説明)

(資料「すこやかトレーニングスクール」について説明)

(別資料「健康チェックと体力診断」「大人のためのニュースポーツ体験」について説明)

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

質問) 今日入ってきた話ですが、高根台にも空き家が結構あり、その空き家を利用して放課後児童の事業をやりたいという民間企業がいるようですが、町に報告はありますか。自治会としてはどのように対応したらいいのでしょうか。(高根台)

答) その話は初めて聞きましたので確認いたします。(民生部長)

質問) 自家用車を使って移動しているが、今日の新聞に高齢者が有料道路を逆走するという記事があり、自分もいつか免許証を返納する日が来ると思っています。現在、循環バスやタクシー券を配布しているが、今後移動手段を持たない高齢者は増えると思えます。町として公共交通網を充実させていく考えはありますか。(福住園高台)

答) 循環バスを走らせていますが、家の近くまで来てほしいなど、いろいろな意見をいただきます。今の大きさの車が狭い道に入っていけるかというと、警察の許可を受けなければいけないこともあり、思いどおりに走らせることができません。また、運行時間についても、駅で電車の時間に合わせながら走っているため、今のコースを回るだけで手一杯の状況です。時間どおりに走ることは難しいため、運転手の休憩時間を確保することも大変です。交通弱者の対策は必要なことだと思えますが、なかなか難しい問題です。先日新聞にも載っていましたが、県内で自動運転の実験を行っているので、できるだけ早く自動運転が可能にならないかと思っています。現在、循環バスの運行とタクシー券を年間30枚配布しているので、今のところはそれでご理解いただきたいと思えます。(総務部長)

要望) 板山から陽なたの丘に抜ける道の往来が激しくて危険なので、ぜひ対策をしてください。(板山)

要望) 障害者や高齢者にタクシー券を配布しているが、初乗りの分だけなので、特に障害者の方は連続で使うことができるように、もう少し配慮をしていただきたい。

人間ドックや脳ドックの補助は74歳以下の方が対象なので、75歳以上になると全額負担しなくてはなりません。健康寿命を延ばすために必要だと思うので、もう少し拡大していただきたい。(高根台)

要望) 空き家や放置家屋(ごみ屋敷)というものが社会問題となっている。現在も行政で取り組んでいただいているが、一歩前進した対応をお願いします。(高根台)

お願い) 先ほどご説明した消防団についてですが、この地区の担当である2分団の団員が不足して困っています。消防団員の確保にご協力ください。(総務部長)

5. 閉会あいさつ

今日は本当にお疲れ様でございました、ありがとうございました。昨年からこのようにテーマを決めさせていただいて未来づくり懇談会を実施させていただきました。2つのテーマを決めて先ほど両部長がご説明いたしました。最後の消防団員の勧誘、こちらも町にとって大きなお願いですので、どうかご協力をお願いいたします。それでは時間になりましたので、これで終了させていただきます。どうも今日はお疲れ様でした、ありがとうございました。(副町長)

平成29年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月16日（火）午後7時～午後8時55分
□会 場	白沢区民館
□参加者	町側10人、地区側26人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

3. 懇談会テーマと質問事項等についての主旨要約

①顔の見える地域づくりについて（配布資料に基づき総務部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

（①について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

問い掛け）消防団員が「こうすると集まるのではないか」というご提案などがあればよろしくをお願いします。せっかくですので、自治会長さんの中でお願いできますか。どなたか苦勞していることなどをご発言いただければ助かります。（政策協働課長）

質問）先ほど第2分団の中で、白沢台の名前がありました。白沢台には消防団員がいるのですか。（白沢台）

答）います。〇〇さんです。（白沢台）

答）分かりました。（白沢台）

意見）消防団員になる人が少ないのは、団員になると、訓練や行事など、いろいろ拘束されるというイメージがあるので入団しないのではないのでしょうか。また、サラリーマンだから、日中常時動けないということを心配して入団しないのではないのでしょうか。白沢台に常時いるのは高齢者が多いので、団員として日中動ける人はいません。（白沢台）

答）消防団員になる条件は「18歳以上の健康な人」とだけ規定されています。先ほど言われたとおり、高齢者の方は体力的に難しいのが現実です。倒れても困ります。消防団の活動はそんなに多くありません。年明けの出初式や観閲式、6月の操法大会ぐらいです。操法大会はタイムを競うので体力を必要とするところがあります。私たちが消防団に入っていたころは、地区に消防団員になる順番があり、だいたい25歳ぐらいになると入団し、だいたい30歳で退団していました。しかし、最近はそのようなことがなくなったので、

入団者が少なくなっていました。現在2分団には5人いますが、全て2桁の経験年数です。長い人だと15年超えの人がいます。英比小学校で行った懇談会でも、何とか団員の数を増やしたいとお願いしました。その会場でも、いざ日中に火災が発生してもサラリーマンが多く、駆け付けることができないのではないかと心配する意見がありました。消防団の活動は、火事に限りません。普段からの備えにも携わりますし、そうしてほしいと考えています。今回発足した女性消防団については、子どもたちへの防火・防災教育に主眼を置いています。訓練については女性消防団も同様ですが、水が出せる技術だけは身に付けてほしいと思いますので、その訓練は必ず行います。サラリーマンの男性消防団員がいないときに火災などがあれば、女性に頼ることもあるかもしれないと考えています。あまり高齢の方は無理ですけれど、ある程度体力などに自信のある方ならぜひ、高齢の方でも消防団に入りたいと思います。また、周りに若い人がいれば、消防団に入るようお願いしてください。(総務部長)

質問) 任期はありますか。(白沢台)

答) 特にありませんが、2分団の団員は辞めるに辞められない状況です。だいたい5年、長いと10年で交代していくのが標準です。(総務部長)

提案) 消防団の話が出ていますが、行政協力員さんや地区に対して、町の方から資料提供として消防団の対象者を教えたらどうでしょうか。個人情報もあり、難しいと思いますが。(白沢)

答) 行政協力員さんには毎年、地区内の名簿をお渡しています。年代ごとではないので、難しいところもあると思いますが、行政協力員さんにご承知のことと思います。(総務部長)

質問) 先ほど町内で火事があったということですが、全部団員が活動したのですか。(白沢)

答) 消防団が、先頭に立って直接水を出しているわけではありません。消防職員が最初に現場に駆け付け、最前線で消火に当たります。団員は、どこで火事があったというメールをもらってから出動するので、どうしても遅れて到着することになります。前半の消火は消防職員がやりますが、火を消したら帰ってしまうので、鎮火後の見守りなどが消防団の大切な仕事の一つとなります。消防団は火が出たときに駆け付け、自分たちで消火するのではなく、鎮火後の見守りといった後方支援の意味合いが強くなっています。(総務部長)

質問) 昨年、町の防災訓練があり、安否確認フラッグの訓練はそれなりには良かった。訓練の時、私たちは高齢者の支援活動として、町に登録された支援のいる高齢者のマップを作った。そうすることで、支援のいる高齢者がどこにいるか把握できた。白沢には65歳以上の方が615人いると聞いた。その中には、名簿に登録もされていない人、動けない人もいると思う。そのあたりの人を町は把握しているのか。登録した人の情報は町から下りてくるが、そうでない人の情報は、個人情報なので我々のところまでは下りてきません。

その辺りはどうですか。(白沢)

答) 防災交通課からまず、高齢者の単身世帯、高齢者世帯の方、障がいのある方に対しては登録してほしいという旨の案内を出しています。登録した方については、自主防災会や民生委員に情報を渡して良いという了解をもらったものと考えています。それ以外の方に関して、町の方からここにこんな人がいるという情報を教えることはできません。ですので、地区の自主防災会の活動の一つとして、そういった世帯などの確認・把握に努めてほしいと思います。(総務部長)

質問) 町は把握しているということで良いですか。(白沢)

答) 把握というか、居住していることは分かります。(総務部長)

意見) 私たちだとなかなか深いところまで、立ち入るわけにはいきません。(白沢)

答) 知られたくないという部分も大きく、家族の方が拒否することもあります。普段ではなく有事の時のことなので、町としてはぜひ登録制度を利用してほしいと思っています。先ほど町長の話の中にもありました火消し隊は、現在町内で8地区にあります。今年も火消し隊のポンプを購入する予算を確保しています。現在火消し隊がないメイツ、白沢、白沢台地区には、ぜひ立ち上げていただきたいと思っています。(総務部長)

②健康で元気に暮らすために(民生部長説明)

内容は同趣旨のため省略(5月9日(火)宮津公民館参照)

人口減少について追加説明(民生部長)

先日の日経新聞に、愛知県の月ごとの集計で、子どもの生まれた数(出生数)と、亡くなられた数(死亡数)を比較すると、死亡数が出生数を何カ月も上回っており、このままいくと2017年には、統計を始めて以来(1956年以来)初めて人口が減少するとの記事が掲載されていました。出生数から死亡数を引いた数で、自然増か自然減かを表す人口動態では、年間ベースは10月1日を基準にしており、今年3月までの累計が、すでに3,767人の自然減になっているそうです。4月1日現在では、昨年と比べ、すでに2,500人を上回っております。このままいくと、2017年は700人以上の自然減になる見込みで、元気な愛知県も人口減少の兆しが見えてきたという記事でした。

(②について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約)

問い掛け) それでは、皆さんが考える健康づくりについて教えていただきたいと思います。私はこんなことやっている、食べ物に気を付けているということがあれば教えてください。(民生部長)

質問) その前に、健康寿命の定義って何ですか。何を持って健康寿命の定義としますか。薬を飲むと健康寿命の期間には入らないのですか。(白沢)

答) 薬でもいろいろありますが、結局、健康寿命というのは、仮に病気になっていても、介護や看病などで人の支援を受けておらず、基本的には自立して自分の健康状態を保ったまま生活できている期間のことです。(民生部長)

質問) それが健康寿命ですか。(白沢)

答) それが健康寿命と言われています。(民生部長)

問い掛け) もし良ければどうですか。健康についてどんなことをしているか教えてもらえませんか。(民生部長)

答・質問) 健康だけには自信があります。要するに今回は、健康寿命を皆さんで伸ばそうということですか。そうなるとその定義をどこで分けるかということについて、もう一度教えてください。(白沢)

答) 今言ったように、基本的には人の世話にならずに、自立して生活できている期間のことです。(民生部長)

質問) 健康寿命の話は聞きましたが、要支援1・2とは、どういう状態のことですか。法律を見ても、その中にはパーセントのことしか書いていません。介護課の方と保健センターの方に聞いたが、返答がありません。だから、半田市に行き教えてもらいました。事務をやっている人が分からないのは、いかがなものかと思う。だから、部長さんの言われる健康寿命と要支援1・2の違いを知りたいです。(白沢)

答) WHOの基準だと、先ほど部長が言ったように健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間と定義されています。(町長)

質問) 定義は分かった。町からの資料などには、要支援1・2などの言葉が出てくる。担当者や民生委員にそのことを聞いても分からないという。今回あらためて、要支援1・2はどのような状態かということを知りたい。(白沢)

答) 要支援1・2、要介護1～5までありますが、まずは本人や家族を前にして日常生活の認定調査を行います。そして、本人の主治医さんの意見書を添え、生活全般に関して本人の生活に支障をきたす部分などを総合して判断します。点数化されており、システムに本人のできないことなどをインプットすると、集計して点数を出してくれます。認定審査員さんがそのデータと、データからは分からない情報を家族や本人から聞き取り、総合的に判断します。(民生部長)

質問) そんな難しいことではなく、もっと簡単に言ってください。自然に歩けるとか、何かにつたって歩かないといけないとか、そういう基準はないのですか。(白沢)

答) 身体的なことだけでなく、認知的なこともあるので、一様にここからここまでが1・2と判断するというよりも、多少本人のできる・できないということなど、さまざまなことを踏まえて判断します。ここで私がこういうものだというのは不透明な話になるので、このあたりにしておきます。(民生部長)

意見) そういったことが分かる資料がないし、言っていることと実際やっていることがマッチしないのでちょっと聞きました。(白沢)

答) あらためて窓口に来ていただければ、もう一度きちんと説明します。(民生部長)

意見) 私は資料をもらってきているからいいんです。僕は知っているからいいんだけど、他の人たちがどういう風に思っているかと思って。やっている担当自身がそういうことを知らないから、それでお聞きしました。(白沢)

まだ、民生部長の説明の途中ですので、自由意見は最後にお聞きします。(政策協働課長)

問い掛け) すみません。私の話よりも〇〇さんの説明の方が楽しいかもしれませんね。私は〇〇さんの健康の秘訣を聞きたいのですが、よろしいですか。(民生部長)

答) 病院に行くことです。(白沢)

(資料「健康づくり事業」「各同好会の活動内容」について説明)

(資料「すこやかトレーニングスクール」について説明)

問い掛け) 健康づくりについて何かございますか。(民生部長)

要望) 健康づくりについて一言よろしいですか。家内と2人で知多市のグラウンドゴルフに行っています。知多市と東海市の人しかできないコースなのですが、知多市の友達に誘ってもらって週2回ぐらい通っています。1年たって、それまでは、階段を上がったたりしゃがんだりすると、ずっと膝が痛かった。けれど、グラウンドゴルフを始めたら、膝の痛いのがなくなった。だからこの阿久比にも、白沢グラウンドあたりにグラウンドゴルフ場を作ってほしい。そうすると毎日でも行けます。知多市は消防署の裏にあり、無料でプレーできます。(メイツ巽ヶ丘)

質問) グラウンドゴルフ場として整備されているのですか。(民生部長)

答) グラウンドゴルフ場として整備されています。阿久比でも無料でやれるところを作っ

てください。(メイツ巽ヶ丘)

意見) グラウンドゴルフはボールを枠の中に入れるスポーツですよね。うちのおふくろも好きです。歩くのが体に非常に良いですね。歩くのは健康づくりの基本。とにかく歩くということが、1番体に負担がかからない良い運動だと思います。(民生部長)

要望) ぜひ、白沢グランド辺りにグラウンドゴルフ場を作ってください。(メイツ巽ヶ丘)

意見) それとメイツはここにみえている〇〇さんが毎週土日に健康体操の先生をやってくれています。家内も毎週休まずにやっているおかげで元気にやっています。私も75歳になりますけど健康です。(メイツ巽ヶ丘)

意見) 健康寿命を超えていますね。ありがとうございます。阿久比町も健康寿命を延ばせるように頑張ります。(民生部長)

意見) 先ほどの方がおっしゃったように、20年間1回も休まず毎週土曜日に元気に体操教室を行っています。やっている私も85歳を過ぎますけれど、健康については、まず基礎体力を作ることが大切です。女の人はどうしても家に閉じこもってしまいます。体操教室で週に1回人と顔を合わせるということで、本当にストレス発散にもなります。私は45歳からヨガをやっています。その他に太極拳などもやっています。それらを基本にしながら、いろいろアレンジをしています。

自分では何よりも町長にお礼を言いたいと思って来ましたが、巽ヶ丘の駅の踏切の件ですけれども、大変良いアイデアで歩行者に安全な道路を確保していただきありがとうございます。根本的な踏切の改修は大変なので、あれだけでも本当に十分。安心して毎日使っています。ありがとう。(メイツ巽ヶ丘)

質問) 駅北の踏切のことですか。(政策協働課長)

答) そうです。(メイツ巽ヶ丘)

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

意見) たまたま今朝、踏切のところで自転車で通学する女子中学生がひっくり返っていました。助けに行くと、自転車の荷台に大きなリュックサックが付けてあって、持つと10kg近くありました。何が入っているのかと聞くと、全部学校の道具だそうです。その日以外にも、通学途中で転ぶと言っていました。かごは禁止なので付けられない、道具は学校に置かず、毎日持って帰らないといけないと言っていました。別の学校ではリュックを下げて、荷台に荷重をかけて乗っているそうです。そうすると安全なのですが、阿久比中学校はだらしがないから禁止だそうです。その子によると、自転車通学する他の友達も転んでいるそうです。男の子や自転車に慣れている子、体重の重い子なら多分問題ないのですが、

あまり慣れていない女子や、体が小さい子は、あのような重たいリュックを小さい荷台にゴムでくくりつけ、長い時間自転車で通学するのは、見ていて本当に危ないと思います。何とかありませんか。(白沢)

答) 内容を確認したいのですが、リュックサックを荷台に縛って登校している女の子が、ときどき転んでいるところに遭遇したということですね。背負っているケースもありますが、そうではなかったのですね。(教育長)

意見) そうではない。リュックをしっかり背負うと重たいため、かえって危ない。ある学校では、肩ひもをゆるめてリュックを下げて、荷重を荷台にかけ、負担がかからないようにしている。そうすると安全なのだが、阿久比中学校ではそれをやると、だらしないからダメだと言っていました。(白沢)

答) 今年度の1年生からナップサックを導入しました。まだ、2カ月弱でいろいろなケースが起きているように思います。学校に確認し、子どもたちの声を集め、何らか安全に通学できるように方向を探ります。(教育長)

意見) 今までの肩かけの方が、荷台に積みやすかったのかなと思います。新しくなったのでその辺りの確認をお願いします。(白沢)

意見) 昨年の未来づくり懇談会の「ゴミの減量化について」ですが、このことについて、昨年、地区別に減量がどれだけあったかを数字で出してもらってはどうかと提案しました。地区別でなくても、町全体で昨年の同時期と比べどれくらいに減ったかとか。この前は人数で割っているから、人口やごみが増えたとしても大丈夫だと思う。(白沢)

答) 全体量でしか出していないのですが、平成27年度は5,534トン、平成28年度は5,512トンと、わずかですが22トン減量できました。町民1日1人当たりのごみの量で換算すると、平成27年度が535.9g、平成28年度が527.1gとなり、8g程度の減量となりました。なかなか目標には達成しませんが、皆さんの努力で徐々に減量が進んでいます。(建設経済部長)

提案) 町全体22トン減量できたのは分かった。地区別に公表すれば、競争できると思う。そのためのデータを今作っているようですが、何とか改善の方向に進めばと思っています。(白沢)

答) パッカー車は、地区ごとに回っているものではないので、地区ごとの把握は難しいです。(建設経済部長)

提案) おおよそなので、白沢なら3カ所混ざっていても構いません。(白沢)

答) 白沢周辺で1日にどれだけごみが出たか、大まかな数字なら出せると思うので。何とかしたいです。(建設経済部長)

意見) 関連して企業のごみ関係はどうなっていますか。特に庁舎内はどうなっていますか。昨年と今年を比べてどのくらい減量があったのでしょうか。町民だけ減らそう減らそうと言われても、町自体にその意識がなければ駄目じゃないかと思います。(白沢)

答) ご指摘ありがとうございます。今、数値を持っていませんが、新しい庁舎になり、職員には「器に見合うように頑張れ」ということで、普段からハツパを掛けています。ごみの排出だとか電気のオンオフ、水の利用など、随時注意をしているので減っていると思います。(総務部長)

意見) データを出さなければ、減っているか減っていないかは分かりません。データ分析といった意識について、阿久比町は他の市町と比べ欠けている。(白沢)

答) 今、詳しいデータはありませんが、電気と水については昨年から使用量を毎月付けています。担当から、電気料金と水道料金は大きく減っていると聞いています。(総務部長)

質問) 資源ごみの関係ですが、白沢地区は毎月各班の方が資源ごみの回収に立ち会っている。その資源ごみのお金を当てにして会の活動費としています。新聞と段ボールを夜出す方が結構いて、朝行くと夜出した分がなくなっていることがよくあります。午前7時までに出したごみのほとんどなくなっています。ある人に聞くと「午前7時くらいにライトバンが来て積んでいたよ」と言っていました。いまだにそういった業者がおり、還付金を当てにしている会の方が泣いている状況があります。そういった資源ごみ対策は、やはり大字できちんと管理しろということですか。(白沢)

答) 資源ごみの盗難について町、警察で巡回していますが、全地区に張り付くことはできません。こればかりは地元の方で出し方の工夫などをPRして、対策を取っていただきたいと思います。ちなみに白沢地区の昨年度のデータですけれど、平成27年度は33万5千円、平成28年度が29万5千円なので4万円ほど減っています。その他の地区では、27年度と28年度を比較すると白沢台地区は4千円ほどプラス、メイツ巽ヶ丘は6千円ほどマイナスです。これは町から自治会へ行く報奨金の話です。これに実際資源を売ったお金は別で入っていきますので、資源ごみの量が減れば、その分だけ減ることになってしまいます。(建設経済部長)

5. 閉会あいさつ

今日は大変お疲れ様でございました。昨年からテーマを決めて懇談会を実施させていただきました。今回の2つのテーマにつきましては、皆様にとっても行政にとっても一番身近で一番大事なことと思っております。特に、先ほども各部長から述べさせていただきました。あと、途中でお願いさせていただきましたが、この地区の消防団員の確保というこ

とで大変心配しております。町の方も確保に努めますので地区の方もご協力お願いします。
これで終了させていただきます。ありがとうございました。（副町長）

平成29年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月17日（水）午後7時～午後8時53分
□会 場	中央公民館
□参加者	町側10人、地区側15人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

3. 懇談会テーマと質問事項等についての主旨要約

①顔の見える地域づくりについて（配布資料に基づき総務部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

（①について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

要望）大字坂部としては、顔の見える地域づくりに該当してくるものとして祭礼があります。子どもお囃子をやっています。この前お祭りがありまして、2週間ほど練習し、親と子どもが地域との交流を図ることができました。これをさらに維持、継承させるために、もっとたくさんの人に来てもらいたいです。そのためにみんなと話し合った結果、数十年前にみこしをつくりました。それで子どもが各地区を回り、交流を深めたいです。そのみこしの修復には相当なお金が掛かります。何らかの形で、予算に取り入れてください。

（坂部）

答）今現在、阿久比町としてお祭りに対しての補助はありません。しかし、国の補助金で文化庁の伝統文化の親子教室の補助事業があります。そちらは親子で行う事業に対して、道具を買ったり、太鼓を修理したりするなど、みこしの修理に対しても補助できますので、そのような補助事業に申請していただくといいのではないかと思います。町の補助としては、住民税1%町民予算枠制度もありますので、一度地区で協議してみたいはいかがでしょうか。文化庁の補助については、社会教育課が窓口になりますので、ぜひ活用してください。（教育部長）

追加要望）この前、文化庁から補助金を振り込んでいただきました。ありがとうございます。補足として、なぜお囃子が必要かという点、消防団員がなぜ少ないか考えたときに、お囃子などが盛んなところは、お囃子の保存会が縦割りで決めることができます。秋の運動会のメンバー決めの際も、子ども会やPTAをほとんど使っていません。今年春にお囃子をやった際には、40人が参加したので、お囃子保存会のように、縦割り組織がしっかりしていれば、消防団員も集まると思います。文化庁からの補助ももらっています。町か

らの補助もお願いします。(坂部)

答) お囃子を持っている地区が23地区のうち、半分もありません。文化財という名目で予算を付けていますが、町の文化財に指定されたものしか対象となりません。植は、お囃子がありますが、山車はありません。子どもは塾やスポーツ少年団に入っており、人数が少ないです。各地域の特色ある絆づくりをしていかないと難しいです。それに対しての予算化をできるのかを町も考えていきたいと思えます。(町長)

②健康で元気に暮らすために(民生部長説明)

内容は同趣旨のため省略(5月9日(火)宮津公民館参照)

人口減少について追加説明(民生部長)

先日の日経新聞に、愛知県の月ごとの集計で、子どもの生まれた数(出生数)と、亡くなられた数(死亡数)を比較すると、死亡数が出生数を何カ月も上回っており、このままいくと2017年には、統計を始めて以来(1956年以来)初めて人口が減少するとの記事が掲載されていました。出生数から死亡数を引いた数で、自然増か自然減かを表す人口動態では、年間ベースは10月1日を基準にしており、今年3月までの累計が、すでに3,767人の自然減になっているそうです。4月1日現在では、昨年と比べ、すでに2,500人を上回っております。このままいくと、2017年は700人以上の自然減になる見込みで、元気な愛知県も人口減少の兆しが見えてきたという記事でした。

(②について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約)

問い掛け) ここで皆さんにお聞きいたします。皆さんの中で今、自分自身の健康づくりのために、何か続けていることはありますか。どんなことでも良いですよ。例えば、食事のこととか。毎日気にして習慣みたいにやり続けていることとかございましたら少しお話していただきたいと思えます。〇〇さんいかがでしょうか。ご指名してよろしいでしょうか。いかがですか。(民生部長)

答) 仕事を辞めてから、阿久比町の健診でメタボに引っかかりました。考えて見ると、仕事を辞めてから、暇になっても、農業などをやるわけではなく、ブラブラしていました。講習を受けるようにと案内が来たので4日間ぐらいの講習を受けました。食事のこととか、運動のこととか話を聞きました。私はコーヒーが好きで、いつもフレッシュを入れていました。植物性のフレッシュは良くないので、牛乳がいいですよと言われたので、それからずっと牛乳を入れていました。あと、アクティブあぐいという同好会に入って、ミニテニスを週に2回、3時間ぐらいやっています。ウエストも減りました。結論をいうと無理なく体を動かすことが大切だということです。(卯之山)

説明) ウォーキングされている方はみえますか。昨年、阿久比に中京大学の湯浅先生が来られて、運動の基本は歩くことだと言っていました。3つの基本があって、それを守ると

効果が上がるとおっしゃっていました。その3つは「早歩き（普段より速めに歩く）」と「楽であること（息切れするほど速くしない）」と「10分以上続ける」ことだそうです。（民生部長）

（資料「健康づくり事業」「各同好会の活動内容」について説明）
（資料「すこやかトレーニングスクール」について説明）

質問）健康寿命は65歳という話ですが、私の知識では、常備薬を必要としないことと、介護を基準として70～71歳だと思います。65歳というのはどこからの情報ですか。（坂部）

答）WHOの数値です。入院や介護のような人の支援が必要となる年齢を平均すると65.8歳です。データヘルスですので、国民健康保険に加入している方の平均値となります。（民生部長）

要望）あまり65歳が健康寿命だというとマイナスイメージを受けます。私たちは皆それを超えています。また、ウォーキングが良いという話ですが、内転筋に力を入れて、30分、3kmから4kmが一番効果的と言われています。坂部におきましても、少なくとも私の知る限りで十数人の方たちが歩いておられます。私も週に1、2回歩いています。そして、常時頭を使うことをしていかないと、認知症の予防になりません。そのような情報提供をいきいきクラブなどでしてほしいです。（坂部）

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

要望）顔の見える地域づくりということで、散歩の仕方に違いがあります。女性が散歩をするときは複数で、中央道や人の見えるところでやります。スポーツ村のところを散歩するのは、ご夫婦が3組と2人組の男の人です。道路の向こう側は、全て男性で、1人で歩いています。男性と女性で行動のパターンが違います。健康づくりの事業に参加する人は、女性が8割です。男性が参加しないのが最大の問題です。これは男女で頭の構造が違うからです。顔の見える地域づくりの問題点としては、端的にいうと楽であるのは縦組織ですが、横の組織に変えないと縦組織はいずれ崩壊します。定年を過ぎた60歳から75歳までの元気な方が坂部にはたくさんいますが、どのようにその方たちを横組織にしていくかが、いろいろな活動を進めていく上で大切だと思います。卯之山は区長の決め方を縦組織から横組織に変えました。同年者が多いと頼みごとをしても、横のつながりができます。65歳から75歳くらいまでの行動パターンの捉え方をいろいろな施策の中で工夫をしたほうが良いと思います。（卯之山）

要望）坂部では、民生委員の協力により、安心カードを作りました。緊急連絡先として、家族の勤務先の連絡先などを隣近所とのグループとして登録しています。現在、500世帯中100世帯が登録されています。長く住んでいる方は協調の精神がありますが、新し

く住まれた方はなかなか心を開かないので何とかしたい。個人情報のこともありますが、いつ地震が来るか分からないので、協力していただきたい。それに関連して、親子の良好なコミュニケーションを形成するためには、親子のふれあいが大切です。坂部はお囃子保存会の会長が、子どもたちとコミュニケーションをとっているのも私も感心しています。同時に、みこしの件ですが、町長施政方針の4番目で、人を育てる教育文化のまちづくりのための推進施策については、親と子が町内を練り歩くというのは、子どもたちの健やかな成長のために良い傾向だと思いますし、一体化を図れると思います。ただ、財政上の問題もありますし、坂部だけというわけにはいきませんので、地域の特性をうまく反映させるような方法を、町から捻出していただきたい。（坂部）

答) 私もそういう考えは賛成です。賛成ですが、私の中で最もネックとなっているのが宗教と政治です。虫供養も同じですがクリアできないジレンマで、みこしとなると氏神様の神社の行事ですので、それに対しての補助は非常に難しい。また、坂部の話を聞いていて感じたのは、東部にコミュニティができたということです。まずは、コミュニティを親子のふれあいなどを使って、どう楽しくするか。新しく陽なたの丘ができ、地域の中にどう入れるかということです。南部にはコミュニティがあり、草木は名前さえ変えれば、すぐにコミュニティができます。問題は一番地域の多くある英比学区です。正直に言うと、英比学区にコミュニティができると、阿久比町の全ての4学区にコミュニティがあることになります。坂部の組織力を広げていき、阿久比の中心部として絶対的に今から必要となります。人口ピラミッドを見ていただくと5年後、10年後に逆三角形になっていくと思います。区長を中心として新たな地域づくり、コミュニティづくりをしていっていただきたい。（町長）

要望) お囃子は各地区で温度が違います。阿久比町として一つのパターンを作ってほしいです。各地区の共通のものとして、もっと広まるのではないかと思います。「阿久比音頭」のようなものを作ってください。（坂部）

答) ぜひ住民税1%町民予算枠事業に応募してみたいかと思いますが、良いものだと思いますから言っています。神事ではなく、阿久比でみんなが集まって、伝承文化の一つとしてのお囃子披露は良いと思います。（町長）

説明) 住民税1%町民予算枠の話が出ましたので説明します。皆様からアイデアをいただき、町が実施するアイデア事業は6月23日まで受け付けております。皆様方が主体で行うコラボ事業は8月2日まで受け付けております。阿久比町は200以上のお囃子がありますので、このような事業も良いと思います。（政策協働課長）

5. 閉会あいさつ

本日は本当にお疲れ様でございました。昨年からテーマを決めて懇談会を実施させていただきました。今回の2つのテーマにつきましては、一番身近で一番大事なことだと思っております。これからも皆様の地域づくり、健康づくりに努めてまいりますのでよろしく

お願いします。先ほども部長から出ましたが、消防団員の確保を最後のお願いとさせていただきます。それでは、時間になりましたので、これで終了させていただきます。ありがとうございました。（副町長）

平成29年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月18日（木）午後7時～午後8時51分
□会 場	草木公民館
□参加者	町側10人、地区側17人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

3. 懇談会テーマと質問事項等についての主旨要約

①顔の見える地域づくりについて（配布資料に基づき総務部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

（①について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

質問）突飛なことを言いますが、各学区にちょっと大きい太陽光発電と蓄電装置を学校や施設など公共的な土地に設置し、通常は売電、非常時は蓄電した電気を独立電源として大規模災害時に公共施設を動かし、各地区に独立した備えも良いのではないかと思います。1学区で毎年一つずつ作っていけば、4年か8年で終わります。大規模施設を作るよりはいいと思います。10年ぐらいで投資額が戻ってくると思うので、かなりのメリットがあると思います。（草木）

答）貴重なご意見ありがとうございます。新庁舎につきましてはご存知だと思いますが、屋上に太陽光発電が載っています。ホールにも載っています。学校の方にはどうかというご意見なのですが、一度研究したことがあります。売電というものがあつた時に、いろんな地域で学校の屋上に太陽光を載せてということがありました。考えましたが、学校の屋上自体が太陽光を載せるだけの加重に耐えられるかどうかという大きな課題がありまして、現状の学校では難しいのではないかと。補強してまですることが難しいという結論に達したと私は思っております。（総務部長）

②健康で元気に暮らすために（民生部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

人口減少について追加説明（民生部長）

先日の日経新聞に、愛知県の月ごとの集計で、子どもの生まれた数（出生数）と、亡くなられた数（死亡数）を比較すると、死亡数が出生数を何カ月も上回っており、このままいくと2017年には、統計を始めて以来（1956年以来）初めて人口が減少するとの

記事が掲載されておりました。出生数から死亡数を引いた数で、自然増か自然減かを表す人口動態では、年間ベースは10月1日を基準にしており、今年3月までの累計が、すでに3,767人の自然減になっているそうです。4月1日現在では、昨年と比べ、すでに2,500人を上回っております。このままいくと、2017年は700人以上の自然減になる見込みで、元気な愛知県も人口減少の兆しが見えてきたという記事でした。

生活習慣病予防について追加説明（民生部長）

ここで生活習慣病予防のPR標語がありますので紹介します。

「一無（いちむ）・二少（にしょう）・三多（さんた）」です。言葉で聞いても何のことか分からないと思いますが、生活習慣病予防の基本中の基本です。

「一無」というのは「禁煙・無煙」のことです。喫煙は万病のもと、本人や他人の害になります。

「二少」というのは「少食（腹八分目）」と「少酒（酒は日本酒で1日1合）」という意味です。

「三多」というのは「多動（1日10分程度動く）」と「多休（睡眠を7～8時間とり休むこと）」と「多接（人と接し、交流すること）」です。

いずれにしましても、生活習慣病の予防については、本人がまず自覚することが大事です。そして今の生活習慣を見直すという意識が無ければ予防にはつながらないと思います。

（②について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

問い掛け）ここで皆さんに、自分が思う健康づくりや健康の秘訣、食事のことなどがあればお話ししていただきたい。健康自慢をしていただきたい。どなたかいらっしゃいますか。お見えにならなければ、指名させていただきます。（民生部長）

答）すっぴんヌード美人を目指しております。カーブスへ通っております。それからボランティアで、踊りを月に3回ぐらい、練習は週に2回ぐらいしております。舞踊や、どじょうすくいなどを行っております。食事は出掛けていても、大体家に帰って自分で作って食べています。（草木）

答）毎日ジョギングをしています。1日10kmを目標に頑張っておりますが、大体7kmか8kmぐらいです。食事については、2月に風邪をひいてしまって、食事の量がぐっと減りました。そうすると体重が減ります。それから少しずつ食事の量が増えていきますが、できるだけ増えないように頑張ってきたら、体重が2kgぐらい減りました。風邪をひいたおかげで、風邪が治った後に体重が2kgぐらい減るという、食べなければ体重を減らすことができるという体験でした。（草木）

（資料「健康づくり事業」「各同好会の活動内容」について説明）

（資料「すこやかトレーニングスクール」について説明）

要望) 先ほどカーブスに行っていると言いましたが、お年寄りを寝込ませないことが一番大事なことです。健康体操に行っている人は80代の人でも綺麗です。健康そのものです。私は忙しいのでカーブスに行っていますが、運動がダメでもカラオケなら行きたいという人もいます。60歳や70歳を過ぎた人はカラオケに1回行ったら50円、カーブスなら1,000円補助するとか、何かそういうことをすると皆さんが亡くなる時は医者にかからずに死ねるのではないのでしょうか。

サロンや宅老所、菊などボランティアとして、随分たくさんの方が関わっています。ボランティアをしていて、もしも何かあったらいつもドキドキしているとか、いろいろと心配しながらやっておられるということを知っていただきたい。ボランティアでもせめて時間給ぐらいのお金をあげてほしい。私も70歳になりますが、お世話をするのではなく、お世話をされる方になりそうだと思っています。だから言えるのですが、せめて時間給だけでも出してください。

車の運転ができない草木の人は敬老会に出られません。循環バスを利用すると2時過ぎのバスに乗らなければいけないので参加できません。通院の時も、行きはいいのですが、帰りはタクシーを使っても、初乗り料金だけでは帰って来られません。他の地域の人とは違って草木の人は悩みがあると思います。健康体操に行っている人は草木にもいらっしゃいますが、車の運転ができる人です。運転できなくなったらもう終わりです。私も70歳になったら車の運転をやめて、役場の近くに引っ越そうかと、娘から言われています。でも、やっぱり草木が好きです。草木独自の政策としてせめて循環バスを1時間に1本走らせてください。(草木)

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

意見) 今日の話の主要テーマは少子高齢化で、大変な事態になることだと思いながら聞いていました。そこにはトリックがあると私は思います。なぜかといったら、今65歳以上の方は、30年後にはほとんど亡くなってしまうのです。一番高齢化が激しい、たくさん人口がいる人たちが、30年後にはほとんど亡くなってしまいます。では、何が問題かということと少子化です。子どもが生まれないという結論が出ています。陽なたの丘を見れば分かります。陽なたの丘の夫婦に子どもは2人以上生まれています。全国的には1.4人と言っていました。なぜそんな問題が起きるのか。それは貧困です。はっきり言って若年層の貧困がこういう結果を生み出しています。そこに何も手を打たないまま、少子高齢化だ、少子化だということを言い続けているところに問題があります。若い貧困層をいかに引き上げていくか。そういうことができれば、少子高齢化は起きません。もっと子どもも生まれるし、日本の新しい人口も増えてきます。

石破さんが5,000万人と言ったかもしれませんが、今のまま続けていけばという前提です。本当に解決しようと思ったら、そのところに手を打たなければ、解決できないというのが現状であると思います。

もう一つ、今日のテーマの中ではっきりとさせておかなければならないことは、防災の問題で、見えるところとおっしゃいましたが、いわゆる網の目をくぐる人たちがたくさんいます。チラッと仰いましたけれども、町内会に入らない方はたくさんいます。そういう

人たちは周りの人たちがどういう生活をしているのか知らない人たちです。このような人たちに、実際阿久比町はどんな手を打つのか。そういうところが出てこない、本当に100%安全なまちづくりはできません。そういうところをずっと聞いていますが、一回も具体的な手立てが出てきません。それを大字に任せるとか、評議員に何とかしろでは、解決になりません。町としてどうするかという対応を早くする必要があります。(草木)

答) 後半部分の顔の見える地域づくりは、町として何ができるかではなく、今日最初から言っていますように、自助、共助でないと、公助では無理ですよということを、皆さんによく認識していただかなければいけないという部分を強く訴えたいのです。皆さんがこれからどう考えていくかを懇談したいということで今日来ているわけです。そのあたりを少し勘違いされているのではないかと残念に思います。その辺の部分を草木さんですと、温度差もありますが、いろんな形でボランティアや1%事業にも多く手を挙げていただいて、活発に活動されています。とても素晴らしい地区だと思っていますので、地域の中で隣近所とお付き合いができるように、ぜひ声掛けをしていただきたいと思います。お願いしかできませんが、そういうことですのでよろしくお願い致します。(総務部長)

質問) 先ほどサロンが6カ所増えたということですが、阿久比町で現在何カ所ありますか。草木も計画をしまして、まもなく立ち上げようとしています。(草木)

答) 今は阿久比町でトータル14地区のサロンがあります。昨年増えた地区としては、宮津、阿久比団地、阿久比、棕岡、矢口、植が新しくサロンを立ち上げました。宅老所は宅老所としての役割がありますし、サロンは違った意味で幅広い年齢層の方も対応できるということで、ぜひ、草木地区でも進めていただければと思います。(民生部長)

要望) 防災無線のことで意見です。私は草木に住んでいて、防災無線が聞こえないので、防災ラジオを買っています。新庁舎ができて、施設が変わると雑音が無くなるかと思ったら、雑音は一緒でした。放送に入らなくてもいい言葉が聞こえます。話し声が放送に入っていることがあります。雑音も多いので、その点を何とかしてほしいです。(草木)

答) 防災無線は防災担当で録音してから流しています。防災担当に確認して、一度調べてみます。(副町長)

感想) 今日、初めて参加させていただきました。町長さんをはじめ、部長さん方がこうして夜間に8会場で、町の重点施策だとか今後のことを住民さんと話をするという、大事な機会に参加できて、とても良かったなと思います。部長さん方も町長さん方も町のことをしっかり考えていただいていると、とても伝わってきました。ありがとうございます。サロンの方も増えてきているということで、私も何十年後、サロンに参加するようになった時は、もっと常設型で毎日使えるようになっていたり、歩いて行ける距離にサロンがあったりするような地区になればいいなと思いました。ありがとうございます。(草木)

感想) 町長さんに会ったらぜひお礼を言ってほしいと、うちの孫に頼まれていました。3年間阿久比中学校に通わせていただきました。4月に陸上部に入って早々に、膝を痛めたり、怪我をしたりと、本当に私は病院通いで大変でした。3年間楽しく陸上ができ、中学校にも通わせてもらいました。今はもうここには居りませんが、中学校の医療費無料化は、私は当たり前だと思っていました。倉敷に居た時、医療費は無料ではありませんでしたので、このような楽しい中学校生活を送れなかったのではと思います。本当にお礼を言っておいてほしいと言われましたので、この場をお借りしてありがとうございます。

私は先ほど循環バス、ボランティア、カラオケやカーブスなど3点のことを言いましたが、どれも町のお金が掛かることです。子ども医療費も大変なことだと思います。ぜひ、住んでいる人が、お年寄りもみんな阿久比町で生活できて死ねてうれしいと言えるようにお願いします。(草木)

5. 閉会あいさつ

ありがとうございました。本日の未来づくり懇談会お疲れ様でした。このように昨年からテーマを決めまして実施させていただいておりますが、今回の2つのテーマにつきましては、一番身近で一番大事な話をさせていただきました。これからも、皆様方の健康づくり、地域づくりに努めてまいりますので今後ともよろしく願いいたします。時間になりましたので、これで終了させていただきます。ありがとうございました。(副町長)

平成29年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月23日（火）午後7時～午後8時51分
□会 場	勤労福祉センター
□参加者	町側10人、地区側21人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

3. 懇談会テーマと質問事項等についての主旨要約

①顔の見える地域づくりについて（配布資料に基づき総務部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

（①について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

要望）資料が7・8ページにありますが、その中に提案内容や課題をある程度具体的に掲載していただくと、検討したり、話し合ったりできると思います。また、言われたことをメモする場所もないので設けていただきたい。（矢口）

答）本日の会場の地区は、地域コミュニティとして設立から34年経つ南部コミュニティがある素晴らしい地域なので、ぜひ活動を活発にしていってほしいと思います。提案がほしいということですが、こういうことをやってくださいというと、町にやらされているというご意見をこれまでたくさんいただきました。今回はそういうことではなく、熊本地震の報道を見て、役場は当てにできないということをお伝えしたかったのが一番です。自主防災会の活動内容は地区で状況が違うので、資料の中に掲載することは難しいです。こういうことはどうだろうということをご相談いただければ、先進地の活動内容などを紹介させていただきますので、ご理解いただければと思います。町としては、自助・共助として隣近所が大事であるため、安否確認フラッグの100%掲示を目指したいと考えています。また、メモする場所については来年以降設けさせていただきます。

（総務部長）

関連質問）安否確認フラッグの100%掲示を目指すということですが、なぜ町の防災訓練を8月の終わりに実施するのに、申請期限が7月となっているのですか。無い人を調べるために、別途各地区で防災訓練を先に実施するというのですか。町の防災訓練で安否確認フラッグを使うのであれば、100%掛かっているのを見るのではなく、足りない分を見てから補助できるように申請期限を延長していただければと思います。（椋岡）

答) 足りない分の把握ですが、昨年の防災訓練で一度実施し、掲示された方とされなかった方がいました。されなかった方の中でも、外出していたから掲示できなかった方、興味が無いから掲示しなかった方、無くした方がいると思います。そういうところを少しでも解消したいということで、来月6月10日の土曜日に自主防災会の研修会を行い、防災の担当から安否確認フラッグについて説明させていただきます。事前に調査なり訓練をしていただきたいと思いますが、地区によって防災訓練に対する温度差があるので、できれば1回でも多く訓練に取り組んでいただきたいと思います。申請期限については、4月の行政協力員会で7月だと説明していますので、この場で延長できませんということですが、担当に確認させていただきます。(総務部長)

②健康で元気に暮らすために(民生部長説明)

内容は同趣旨のため省略(5月9日(火)宮津公民館参照)

人口減少について追加説明(民生部長)

先日の日経新聞に、愛知県の月ごとの集計で、子どもの生まれた数(出生数)と、亡くなられた数(死亡数)を比較すると、死亡数が出生数を何カ月も上回っており、このままいくと2017年には、統計を始めて以来(1956年以来)初めて人口が減少するとの記事が掲載されていました。出生数から死亡数を引いた数で、自然増か自然減かを表す人口動態では、年間ベースは10月1日を基準にしており、今年3月までの累計が、すでに3,767人の自然減になっているそうです。4月1日現在では、昨年と比べ、すでに2,500人を上回っております。このままいくと、2017年は700人以上の自然減になる見込みで、元気な愛知県も人口減少の兆しが見えてきたという記事でした。

生活習慣病予防について追加説明(民生部長)

ここで生活習慣病予防のPR標語がありますので紹介します。

「一無(いちむ)・二少(にしょう)・三多(さんた)」です。言葉で聞いても何のことか分からないと思いますが、生活習慣病予防の基本中の基本です。

「一無」というのは「禁煙・無煙」のことです。喫煙は万病のもと、本人や他人の害になります。

「二少」というのは「少食(腹八分目)」と「少酒(酒は日本酒で1日1合)」という意味です。

「三多」というのは「多動(1日10分程度動く)」と「多休(睡眠を7~8時間とり休むこと)」と「多接(人と接し、交流すること)」です。

いずれにしても、生活習慣病の予防については、本人がまず自覚することが大事です。そして今の生活習慣を見直すという意識が無ければ予防にはつながらないと思います。

(②について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約)

問い掛け) 皆さんの中で、健康にまつわること、気を付けていることあれば、何でも結構

ですのでお聞かせください。（民生部長）

答）65歳までは献血をしてデータを基に健康を見ていました。献血を止めた途端に大腸がんになってしまいました。定期的に血の検査をすることは必要だと思っており、今は毎月採血をして検査しています。若い時からのデータで管理することが必要だと思います。（矢口）

答）不健康そのものです。追われてそれをこなすことで幸せを感じています。（阿久比）

要望）3人目の子どもを出産すると5万円支給されるという出産祝い金の制度があり、自分ももらったことがあります。当時から金額が変わっていないので増額してはいかがですか。（阿久比）

答）子どもは宝です。要望として伺わせていただきます。（民生部長）

（資料「健康づくり事業」「各同好会の活動内容」について説明）

（資料「すこやかトレーニングスクール」について説明）

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

要望）役場の庁舎は町民みんなのもので、シンボルとしてカッコいいと思うので、意識を高めるために、役場で子育て支援やセーフティネットのような、意識が高くなって期待を持たせるような役割を持ってくればと思います。また、未来に向けて役場の役割について、今までの考え方を変えていかなければいけないと思います。

コンセッション関連事業についてですが、1年ぐらい前に中日新聞に載っていました。今後税収も減るということなら、雇用促進や観光PRをして税収アップに向けて活動を大きくすべきだと思います。（矢口）

答）これまでは行政主導でしたが、ここ数年言われているのは協働です。住民・行政・地区が、それぞれの役割分担で責任を持っていろいろなことをやっていきたいと思います。大規模災害時に、役場は当てにならないということは分かっていたと思います。コミュニティ活動に対して町からこれをやってくださいということはありません。さまざまな活動がある中で、地域の方が地域に合ったことをいろいろと考えてやっていただきたいと思います。（総務部長）

追加説明）他の自治体にはないものの一つとして住民税1%町民予算枠制度があります。これまでは税金の全てを町が使っていましたが、5年前から町民税の1%（約1,500万円）を、町民の方たちのアイデアや、やりたいと思うことに使えるように予算を付けました。他の自治体でも住民の方にいろいろとやっていただいているところがありますが、予算を全額付けるのは阿久比町だけです。役場の施設を使ってということですが、個人情

報の管理などセキュリティーの問題があります。町議会議員であっても執務室に入ること
はできません。そのため、住民税1%町民予算枠制度に住民の方からいただいたアイデア
で、1年前から公民館の中の一室を「あつまルーム」として住民の方に利用してもらって
います。

コンセッションについて、阿久比PAを提唱したのは阿久比町です。当初の計画では、
武豊と半田ICの間にもう一つICを作るという計画でした。それなら無料化した方がい
いと反対しました。半田市は海底トンネルをコンセッションの中にいれてほしいという要
望をしていました。愛知県が条件として阿久比PAを作るという一文を入れていただいた
ので、民間企業から構想として出てきました。阿久比町の税収を増やすということでは、
農地から土地利用が変わり固定資産税に影響があります。また、従業員などは通勤時間が
短い方がいいので、阿久比町の方が雇用されると思います。阿久比町の農産物をはじめと
する直販もできると思います。観光面でも阿久比町は難しい状況ですが、一つの目玉にな
ると思っています。

コミュニティについては、1つの行政区だけではなく、4学区を見ながら同じような形
で進んでいただきたいと考えています。東部コミュニティを立ち上げた際には、住民税1%
町民予算枠制度を活用しながらイベントを行い、コミュニティの立ち上げまで持っていき
ました。南部コミュニティも防災だけでなく新たな形で進んでいただきたいと思いま
す。

(町長)

意見) 愛知県有料道路コンセッション関連事業ですが、予定されているエリアで農業を営
んでおり、中部土地改良からずっと農業を営んでいけると思っていたので、非常に迷惑だ
と思っています。(阿久比)

答) 農家の方にとって場所の問題が大変心配だと思います。まだ場所について正式決定は
されていません。先日愛知県やコンセッション会社の方などが来庁して意見交換を行いま
したが、手法についても農地を変えるのか検討している段階なので発表できませんとい
う話でした。場所が決定されれば行政も絡んでいくのですが、地主さんの中には、賛成され
る方や、反対される方がいると思います。また、買ってほしいという方や、貸したいとい
う方などいろいろな考え方があると思います。民間が行う事業ですので、さまざまな手法
で行うと思います。これまで行政と事業を行うことはあっても、民間と行うことはなく、
決定権が民間事業側にあります。また、地権者の方の同意がなければ進んでいきません。
個人的にはPAができることはいいことだと思っています。2つPAができますが、少な
くとも公社が作るPAについては国を挙げて実施すると思いますが、任意事業については
不明です。(町長)

関連質問) 国家戦略特区のようなものでないと農地を変更することができないのではない
でしょうか。(阿久比)

答) 手法としては4種類ぐらいあるということでした。(町長)

質問) サイクリングロードの工事が植大から棕岡まで進んできていますが、前田川の工事はいつ頃になるのでしょうか。また、県道を渡るところの通行はどうなるのでしょうか。

(棕岡)

答) 県から聞いている話では、今年の工事は前田川から蟹田橋までの表面の草を取って路盤を作る計画です。前田川を渡る橋については、用地や構造上の設計の話があるので時間がかかるとのことでした。県道についての話はまだ出ていません。(建設経済部長)

5. 閉会あいさつ

今日はお疲れ様でございました。昨年からこのようにテーマを決めさせていただいて懇談会を実施させていただいております。やはり健康づくり、地域づくりが一番大事だということで今回このテーマにさせていただきました。時間になりましたので、お互い健康には気を付けて、帰りは交通安全には気を付けてお帰りください。今日はどうもありがとうございました。(副町長)

平成29年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月26日（金）午後7時～午後8時52分
□会 場	植公民館
□参加者	町側10人、地区側24人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

3. 懇談会テーマと質問事項等についての主旨要約

①顔の見える地域づくりについて（配布資料に基づき総務部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

（①について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

質問）植地区には43人の組長（班長）がいますが、アパートへの対応ができず、悩んでいます。対応について町としてはどのように考えていますか。（植）

答）町としてはそこまで関わるのが難しいです。字に入っていない方や字費を払っていない方にも、声掛け、あいさつをしっかりとさせていただいて、今回のテーマでもある顔の見える地域を築き上げていただきたいと思います。（総務部長）

質問）7ページの消防団員数について質問です。第2分団の条例定数はどのように決まっているのでしょうか。（高岡）

答）条例定数は、消防団の総数124人について決まっています。各分団の人数は規則で定めています。実際こちらの15人という数字は、今年4月から下がった数字です。本来であれば21人なのですが、なかなか消防団員の確保が難しい状況です。女性消防団もつくってきましたので、いったん実際の消防団員数を確保できるまで、少ない数字で設定させていただいております。というのも、消防団員の実団員数ではなく、定数に対して、公務災害などの費用に係る国の負担金を支払う都合で、この状態にさせていただいております。（総務部長）

質問）8年ほど前から、矢勝川の環境を守る会で、彼岸花の球根の植栽活動、草刈活動、清掃活動を、殿橋から西の弘法橋まで2kmほどにかけて、川の堤防の内側を終えて、現在外側にかかっており、観光にも寄与すると思っています。会の課題として、草刈機は、数年前に1度住民税1%町民予算枠制度で購入した1台のみで、何も援助がありません。ほ

とんどの方が実費で草刈機を購入し、使用しています。社会福祉協議会からの毎年1万円の助成を使って刃の交換をしています。自分のお金で刃を替えている会員もいます。これだけのボランティア活動に、阿久比町からは予算が無いと回答され、県の建設事務所へ行くと、県の助成制度があることを伝えられました。阿久比町を通じて県へ申請を送付している実績があることも知りました。建設と観光は隣同士なので、河川の愛護活動の制度を教えてくださいました。 (植)

答) 同じフロアにしながら、横のつながりが無く大変申し訳ありません。情報交換などで横のつながりをしていきますので、よろしく願います。 (建設経済部長)

②健康で元気に暮らすために (民生部長説明)

内容は同趣旨のため省略 (5月9日 (火) 宮津公民館参照)

人口減少について追加説明 (民生部長)

先日の日経新聞に、愛知県の月ごとの集計で、子どもの生まれた数 (出生数) と、亡くなられた数 (死亡数) を比較すると、死亡数が出生数を何カ月も上回っており、このままいくと2017年には、統計を始めて以来 (1956年以来) 初めて人口が減少するとの記事が掲載されていました。出生数から死亡数を引いた数で、自然増か自然減かを表す人口動態では、年間ベースは10月1日を基準にしており、今年3月までの累計が、すでに3,767人の自然減になっているそうです。4月1日現在では、昨年と比べ、すでに2,500人を上回っております。このままいくと、2017年は700人以上の自然減になる見込みで、元気な愛知県も人口減少の兆しが見えてきたという記事でした。

(②について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約)

問い掛け) 皆さんの中で、自分自身の健康づくりのために、何か続けていることはありますか。どんなことでも良いですよ。例えば、食事のこととか、毎日習慣としてやり続けていることなどがありましたら、少しお話ししていただきたいと思います。いかがでしょうか。 (民生部長)

答) タバコは吸いますし、酒は毎日飲みます。しかし、体は良く動かしています。食生活が不安です。 (大古根)

答) 保健センターでもらった万歩計をいつも持っています。数字は、1日5,000歩から1万2,000歩くらいです。 (植)

要望) 毎週木曜日、エスペランス丸山でやっている男性体操教室に参加しています。きっかけは、一昨年の10月から3カ月、町主催の男性体操教室を広報で見たことです。その後、予算が無いということで、町主催で行われていません。集まっている人は元気よくやっています。町で企画をしていただき、輪が広がってほしい。もうひとつは、元気で来ら

れる人が対象の宅老所の扱いがサロンに移っているようです。サロンよりも宅老所の方が会話や一緒にいる時間が長いので、もう少し力を入れてほしいと思います。とりわけ、宅老所は民生委員が中心となっています。民生委員の協力員が何をサポートするかを明確にしてください。（高岡）

答）今も体操同好会があります。同好会へ参加を呼び掛けるのも一つの手だと思います。保健センターに要望があったことを伝えます。宅老所は、南部学区の民生委員さんが中心になってやってくれています。時間も長いですし、週に2回ありますので、楽しみにしてくださっている方も多くいます。ただ、毎回同じメンバーというのは懸念しています。今後も広くPRしていきます。（民生部長）

答）月に15日シルバー人材センターの仕事に行っています。毎回大体1万2,000歩から2万歩程度歩きます。お金をもらいながら運動ができることに楽しみを感じています。75歳になりますが、これが自分の健康法だと思って感謝しています。（高岡）

（資料「健康づくり事業」「各同好会の活動内容」について説明）

（資料「すこやかトレーニングスクール」について説明）

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

質問）安否確認フラッグの掲示率について、この会場のうち1地区は平均以上、2地区は平均以下ということですが、植は平均以下ですか。分母の計算の仕方として、アパートなどで100以上は少なくなっているように感じます。掲示率について、町としてどう思っていますか。また、今後はどのような方法で実施していきますか。（植）

答）植は平均以下となっております。掲示率については、アパートは確認しづらいと思います。そのため今年の報告の方法は、地区に世帯数とフラッグ数を報告していただくようにします。掲示率については、100%を目標としています。というのは、自助、共助が一番の基本だと思っております。いろいろなことを外に出てやることも大切かとは思いますが、フラッグを掲げることが自分の安全を示す自助となり、掲示されていなければ周りの人が不安に思い見に来てくれるという共助となります。そこから始めて、各地区の取り組みをしていただきたい。植は先進的な地区であると思っておりますので、町のリーダー的な存在になってください。（総務部長）

質問）今日は土地利用について話そうと思っていましたが、やめます。この会の運営は町民の声を聴きたいという気持ちが伝わりません。このような声もあったことを肝に銘じて来年の時間配分を考えてください。（高岡）

答）この進め方については、昨年から変えさせていただきまして、30分ずつの割り振りをさせていただいております。本日は間にご発言いただく時間を設けましたので、およそ

30分間皆様からのご発言の時間を設けさせていただきました。申し訳ありませんがご理解いただきたいです。なお、未来づくり懇談会の進め方については、一昨年の行政協力員さんに問い掛けをして決めました。（政策協働課長）

要望) 今年の防災訓練はどのような形になりますか。フラッグを出し、代表の方がどこかに出ているだけです。それ以外の活動もあると思いますが、やり方に疑問を感じます。もう少し住民が参加できるものにしてください。（高岡）

答) 昨年は安否確認フラッグの掲示と、避難行動要支援者の地区内の情報共有を依頼しました。プラスアルファとして、各地区の形に合ったものをお願いしました。今年は、もう少し進めようということで、フラッグの掲示は継続し、避難の支援が必要な方が、どこの家にどのような人がいるかという情報を、事前に地区内で緊急連絡先を知っておくなどもできればよいと思います。例えば、坂部地区では安心カードを作成しています。一歩ずつでも進んでいけるように炊き出しなど地区ごとの体制づくりを考えていただきたいと思います。（総務部長）

要望) 前田川の一号橋から五号橋は通学路となっています。草刈りを以前にも知多事務所に依頼したことがありますが、予算の都合でできませんでした。毎年4月のゴールデンウィーク前に刈っていましたが、今年はできていません。できれば、ゴールデンウィーク前と9月の2回刈っていただきたい。犬の散歩をされる方が多く、草が伸びるとフンを放置されます。犬好きが犬嫌いを生んでいます。子どもの背より高く危ないと思います。町でなんとかできませんか。（高岡）

答) 県の河川ですが、通学路ですので、町で刈ります。区長さんを通して要望をお願いします。（建設経済部長）

5. 閉会あいさつ

今日は大変お疲れ様でございました。昨年からこのようにテーマを決めて懇談会を実施させていただきました。今回の2つのテーマにつきましては、大変身近で一番大事なことと思っております。これからも皆様の健康づくりを皆様で努めていただき、楽しい生活ができればと思います。本日は本当にご苦労様でした。時間になりましたので、これで終了させていただきます。ありがとうございました。（副町長）

平成29年度「未来づくり懇談会」議事録（主旨要約）

□日 時	5月27日（土）午前10時～午前11時54分
□会 場	宮津団地老人憩の家
□参加者	町側10人、地区側18人

1. 町民憲章唱和

2. 町長あいさつ

同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

3. 懇談会テーマと質問事項等についての主旨要約

①顔の見える地域づくりについて（配布資料に基づき総務部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

（①について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

質問）阪神淡路大震災と東日本の震災の具体的な話をされていましたが、実は去年の1月17日の阪神淡路大震災が起こった日に、震災が起きてすぐは1,000人ぐらい生きていましたが、火災のために多くの方が死んでいったとNHKで放送していました。皆さんも見られたかもしれません。

半田市が「はんだ地震防災憲章」というものを出しています。これを見たので役場にも行ってお話ししましたが、半田市のホームページを見れば分かりますよと言われました。これほどまとめてあるものはこれしかないの、ちょうどこの機会にお話しさせていただきます。その中で特記したいのは、感震ブレーカーについて市が1,000円補助しますから付けてくださいという地区を指定しています。私たちのところのように、込み合っていて屋根が1メートルも離れていないような家がたくさんできています。一軒家が燃えたすると、水を掛けても屋根にしか掛からないと消防署で言われました。補助しろとは言いませんが、どういう地区にこういうものがいいのかということを考えてほしいです。

（宮津団地）

答）ありがとうございます。私も半田市の地震防災憲章を知らなかったの、早速調べて確認させていただきます。今ご提案のありました、感震ブレーカーですが、町としても一昨年前の当初予算を組むときに感震ブレーカーを検討しました。半田市は補助という形なのですが、言われたとおり、1軒でも火が出れば、当然周りも燃えてしまうので、1軒1軒の補助ではなくて全世帯に配ることができないかと、金額まで出して検討しました。そこで一つ問題になったのが、中部電力が、今現在のメーターはブレーカーがカチンと落ちるものですが、新しいものだとスマートメーターでそういう形ではありません。感震ブレーカーが付けられるものではないです。中電の方から、ここ数年でエリア内のメーターを

全てスマートメーターに替えていくという話がありましたので、投資してもすぐに不用になってしまうことに、税金を使うことはできないということで諦めたことがあります。

（総務部長）

補足説明）全世帯に付けようと試してみましたが、付けられないメーターもあり、中電に話を聞いたら、その当時で6年ぐらいかけて順次メーターを替えていくという話でした。半年ぐらい前に聞いたところ、4分の1くらいはスマートメーターに替わっていると言っていました。問題は中電が通電するときに火災が起こるので、通電するときに人的にメーターを操作しなければいけないのか確認はとります。計画的にめどが立っているのです。阿久比町としては中電に早く取り替えてもらえるように要望している状況です。この憲章については読ませていただいて、防災の職員と対策を練らせていただきたいと思います。

（町長）

質問）阿久比町は私が住み始めたころより発展して良いことだと思います。名古屋半田線の西側に休耕地が非常に多く、実際にもっと発展させることがあれば、もっと税収が増えているのではないかと思います。その辺の考え方がありますか。愛知県との問題もあると思いますが、東側が発展していますが、西側にできるのは病院やコンビニが多い。もう少し何か緩和する対策などがあれば、発展するのではないのでしょうか。その辺りの考えがあれば教えてください。（宮津団地）

答）用途地域、特に今の東部線と川との間の地域でよろしかったでしょうか。もともと阿久比町は阿久比川が天井川で、排水がスムーズに川に流れていく形状ではありません。川沿いの地区については田んぼで、大雨が降った時は田んぼに水が漬かるように、宅地が水に漬からないようにということで、そういう形状になっています。そこを市街化や開発をして埋め立てていくことは、遊水地が減っていきます。埋め立てて病院などができていますが、そういうところが水に漬かっていくということが考えられます。道路沿いをどんどん発展させていくというのは、確かに良い事かも知れませんが、災害のことも考えながら進めていく必要があると考えております。検討材料として考えていくことはありますが、なかなかその辺りは難しいと考えております。（建設経済部長）

補足説明）私はそれ以上に開発がしたいと思っています。税収が上がりますからね。固定資産税というのが一番確実な、毎年変わらない税収なので、町長としてはしたいのですが、どのくらい難しいものか、お話しさせていただきます。農協の東部支店を学童保育にしたい。最初は土地を買わずに、あそこを借りてできないかなと思っていました。なぜ土地から全て買うことになったかという、都市計画法などの法律です。金融機関の農協として許可を下ろしたから、それ以外に使うことはダメだということです。阿久比町がやりたいなら土地から買わなければいけないということになりました。役場でも調整区域に建っていましたが、新庁舎になるときに変更して初めて市街化になりました。今は病院でも昔ほど簡単ではないようです。非常に厳しくなっています。国の方針としてはコンパクトシティということで、まちの拡大を図っていたのをできるだけ固めようと、小さなまちにして、

そこでみんながやれるようにするという形をとっています。しかし、地域の首長として、せめて立派な道路がついているところは何とかしてほしいと、絶えず要望しております。なかなか国の方も県の方も視点が違いますので、動けない状況下にあります。今私どもがこの問題でやっているのが阿久比PAです。西側に作って、あれだけの面積が農地から宅地に変われば、税収も上がりますがそれすらも難しい。いろいろな方法を県と国と阿久比町で考えて、事業者にとっていけばできるのか、一生懸命考えています。（町長）

②健康で元気に暮らすために（民生部長説明）

内容は同趣旨のため省略（5月9日（火）宮津公民館参照）

人口減少について追加説明（民生部長）

先日の日経新聞に、愛知県の月ごとの集計で、子どもの生まれた数（出生数）と、亡くなられた数（死亡数）を比較すると、死亡数が出生数を何カ月も上回っており、このままいくと2017年には、統計を始めて以来（1956年以来）初めて人口が減少するとの記事が掲載されていきました。出生数から死亡数を引いた数で、自然増か自然減かを表す人口動態では、年間ベースは10月1日を基準にしており、今年3月までの累計が、すでに3,767人の自然減になっているそうです。4月1日現在では、昨年と比べ、すでに2,500人を上回っております。このままいくと、2017年は700人以上の自然減になる見込みで、元気な愛知県も人口減少の兆しが見えてきたという記事でした。

生活習慣病予防について追加説明（民生部長）

ここで生活習慣病予防のPR標語がありますので紹介します。

「一無（いちむ）・二少（にしょう）・三多（さんた）」です。言葉で聞いても何のことか分からないと思いますが、生活習慣病予防の基本中の基本です。

「一無」というのは「禁煙・無煙」のことです。喫煙は万病のもと、本人や他人の害になります。

「二少」というのは「少食（腹八分目）」と「少酒（酒は日本酒で1日1合）」という意味です。

「三多」というのは「多動（1日10分程度動く）」と「多休（睡眠を7～8時間とり休むこと）」と「多接（人と接し、交流すること）」です。

いずれにしましても、生活習慣病の予防については、本人がまず自覚することが大事です。そして今の生活習慣を見直すという意識が無ければ予防にはつながらないと思います。

（②について地区からの提言・質問事項等についての主旨要約）

問い掛け）ここで皆さんに自分が思う健康づくりや健康の秘訣、食事のこととかあればお話ししていただきたい。健康自慢をしていただきたい。どなたかいらっしゃいますか。

（民生部長）

意見）そんなに前置きを長くして説明していただくと、時間が無くなります。テーマが健

康づくりでしょう。これだけある資料を何で最初から説明してくれないのですか。人口減はみんな分かっていることです。去年もそうですけど、本当に時間の使い方がまずい。懇談するのだったら、そちらで10分、こちらが20分でみんな一言ずつ話して帰ることができます。懇談になっていません。そういうつもりがないから、町民の心をつかんでないのです。(宮津団地)

答) 自分が高血圧なので、塩分の制限をしています。もともと家内が薄味でよかったのですが、会社の食堂だと塩の量で選んでいます。出張などで外食をしますと、どうしても取り過ぎてしまいます。(宮津団地)

答) 私は体形的に駄目です。健康づくりはやっています。何年来プールに行っています。それが良かったのだろーと思います。なかなか体重が減らなくて困っています。(宮津団地)

答) ご苦労様でございます。女性がもっと出席されると良かったと思います。ひょっとしたらこの10時からというのが、皆さんに浸透していなかったのかと思います。私は体形的に小さく、お酒も飲めるのではと言われますが、実を言うとお酒は一滴も飲めません。もともと夜更かしもできないので、居酒屋さんに行ってみたいのですが行ったことがありません。そういう意味では健康的な生活だと思います。私はわがままな人間で、好きなものを食べて、好きなことをして、好きなことを考え、それから皆さんと出会うことがとても楽しいと感じている人間です。楽しいということが一番健康に良かったのかなと思います。皆さんの話を聞きながら楽しい方へ考え、生来楽天的で、そういうところも良いと思います。皆さんに勧めるような話はできませんが、個人個人が全員楽しい一日を過ごせたらいいかなと思います。悲しいことを話しても、相手も辛くなることだけですし、何とかうまく乗り越えていけるような術を身に付けることが良いのではないのでしょうか。(宮津山田)

(資料「健康づくり事業」「各同好会の活動内容」について説明)

(資料「すこやかトレーニングスクール」について説明)

4. 参加者との懇談

《町政全般に関して意見交換》の主旨要約

質問) 健康づくりの件で確認したい。もともと健康づくりは、健康の年齢を高くして、男性なら80歳から76、77歳ぐらいまで健康であれば、本人にとってはいい人生ですよ。健康づくりはもともと民生費を削減できるための活動でもありますよね。そういう面で費用と効果はどう見ているのですか。先ほども阿久比町では民生費が一番使っていますよ。この活動で費用をこれだけ抑えている、やらなかったらもっと民生費は増えている。費用対効果は取れているのですか。(宮津団地)

答) 民生費の費用対効果ですが、こういう風な見方をすれば分かりやすいと思います。介

護保険料というのは、皆様からもいただいております。その介護保険料が知多半島の中で最低の料金を維持しているのが阿久比町です。これが3年ごとに改定しなければいけない。3年間は同じ金額で、来年度改定時期に入ります。今年度調べているのは、これを維持できるかどうか。私どもは、今まで町民の皆様方が介護にかかる方が少なく、健康な方が多いと理解しております。今まで使ってきた部分を見ますと、おそらく来期も阿久比町は知多半島の中でも低い額にできるのではないかとわれております。やはり、この辺りから見ても、阿久比町の高齢者の方たちの健康が良いというのが、他の地域に比べてある程度維持されています。それが先ほどの民生費で言えば、抑えられている状況下にあるといえます。しかし、高齢化率が25%を超えてきていて、団塊の世代の方たちが75歳以上に上がってこれば、ますます民生費が上がってくるというのは、確実なことだと私どもは理解しております。（町長）

意見) 災害時の自助、共助について、感じることを申し上げます。7ページに共助が30%と非常に自主防災が重要であると、私も認識しております。4年前に自主防災部長をやりました。例えば、災害が起こったときに、我々は何ができるのかと真剣に考えたとき、結局よく分からなかった。自分なりに素人ということと、1年間の役員なので、なかなか思いを描けなかった。非常に重要性は分かっていますが、何ができるのかというところが、非常に心もとないというのが現実です。（宮津団地）

答) ありがとうございます。私自身も大きな災害を経験したことがないので、いろいろな世の中の起きたことや今までの記録を見て考えながらやっています。私もこれで総務部長2年目ですが、防災担当には、自主防災会の初動マニュアルのようなものを作ったらどうかと指示が出てあります。避難所の運営について避難所マニュアルが備えてあります。各避難所にも備えてありますが、自主防災会についても大きな災害が起きた場合、役場を当てにしないでいただいても、たぶん動くことができないと思います。マニュアル作りをやりたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。（総務部長）

要望) 防災の関係で2点ほどお聞きしたい。安否確認フラッグですけど、再交付は個人負担ということですが、新規の入居者の人にはどういう形で配布を考えていますか。もう1点は、行政協力員の研修で舞鶴の防災センターを見学させていただきました。3Dのビデオや、煙室のくぐり抜け、消火の訓練などの装置があって、それを見学しました。お金も掛かると思いますが、どこかに常備や、代わるようなものを巡回で訓練ができれば、一つの災害訓練になり公助となるのかなと、その辺りの案が検討事項としてあれば教えてください。（宮津山田）

答) まず、フラッグの件ですが、転入した方には転入の届けをされた時に、フラッグや救急キットとごみ袋など、そういうものを一式お渡ししております。阿久比町にお住まいの世帯の方で安否確認フラッグをもらっていないという方は、一軒も無いはずですのでよろしく申し上げます。（総務部長）

追加説明) 先日、舞鶴の方へご一緒させていただきました。防災センターはかなりの予算をかけないとできない設備でございます。町であのような施設を持っているところは、愛知県では無いと思います。そういう施設はできませんが、なまず号は頻りに町の方へ、要望があれば来ていただいて、体験というものは今でも続けております。そういう形で防災意識の向上を図っていきたいと思います。(町長)

要望) 昨今、通学中の児童に車が突っ込むなどのニュースをよく聞きます。そういうニュースを聞いた時に思うことは、ここの地区の宮津保育園から半田信用金庫へ行く道は、実は30km制限になっております。30kmというのは生活道路とみなされていると私は解釈しております。私もあの道を速度範囲内で通りますが、やっぱり後ろからせつついてきたりして、急いでいる方がほとんどです。以前にも申し上げましたが、30kmの標識がありますが、すごく古ぼけて認識しづらいです。半信のところから団地に入ってくるころにも標識はありますが、一回り小さい標識で30kmというのがあります。オアシス大橋から下ってくると、ずっと坂ですからスピードがついていて、標識が小さく気付きにくいです。そこで提案ですが、その標識を大きく目立つようにしてほしいことと、30km制限の黄色い文字が何カ所か消えかかっているのを直してほしいです。予算を組まなければできないと思いますが、児童の通学路ですし、事故が起こってしまえばはいけませんので、事故が起こる前に対策をお願いしたい。横断歩道も消えかけているところがありますので、早急に直してほしいと思います。(宮津団地)

答) ありがとうございます。標識とか横断歩道は全て公安委員会です。町の予算では一切できません。逆にやると訴えられてしまいます。消えかけているところは、公安委員会へ要望を出したいと思います。一度現場を確認させていただいて、地区からの要望書も一緒に添えて出したいので、その辺の手続きもお願いしたいと思います。特にここの地区は以前から信号機を設置してほしいとかありますが、公安委員会や警察の方から、今の道路形状では信号機は付かないということで、カラー舗装とか対応させていただいております。またそういうご意見やご要望がありましたら、要望書を出していただきますようよろしく申し上げます。(総務部長)

追加説明) 公安委員会任せではいけないものですから、町長で作っている町村会がありますが、愛知県知事へ要望を出しまして、今年度は倍額の予算を愛知県の予算で付けておりますので、阿久比町からも強く言っていきたいと思います。阿久比町が独自で行っているのが、スピード調査隊です。ここの保育園でもやりました。40km制限を60km近くで、ブレーキを踏んでのデータがあので速度ですので、実際にはもっと速く走っていると思います。注意喚起ということで、阿久比町独自で行いました。今は移動式のオービスを県警の方が導入し始めましたので、いろんな形で運転手の方にスピード制限を、特にここは子どもさんも多く危ないので、よく注意させていきたいと思います。(町長)

質問) 熊本地震で福祉避難所というものが問題提起されたのですが、阿久比町においても福祉避難所として指定しているところはありますか。あれば、受け入れ人数は何名ですか。

(宮津団地)

答) 福祉避難所というのは阿久比町では介護保険事業所の一期一会荘が福祉避難所として協定を結んでおります。ただ、災害が起きたらすぐに開設できるわけではなくて、福祉避難所として対応可能かどうかを確認しながら、被害者の方にも優先順位がありますので、そういった方を整理してから開設します。人数も限られたスペースですので、20~30人くらいだと思います。部屋が空いていれば使いますが、フロアに仮設で作ります。

(民生部長)

補足説明) 障害の関係でパスピ98という施設がございます。そちらも福祉避難所になってもらえないかと、話をしているところで、近いうちに協定を結べるのではないかと動いておりますので、よろしく申し上げます。(総務部長)

質問) 大災害がもし起こった場合、ライフラインも止まり、避難しなければならないということで、宮津団地としては一番近い宮津保育園になると思います。その宮津保育園で十分な収容ができるのか、また耐震の方は大丈夫でしょうか。(宮津団地)

答) 宮津保育園だけでは無理ですが、耐震の方は全てできております。こちらの地区の避難所ではふれあいの森や宮津公民館もあります。それで足りるかといえば、なかなか難しいですが、そういう形で対応しておりますのでよろしく申し上げます。(総務部長)

質問) 英比小学校の南北の田んぼの中の道のことです。そこは通学路になっているので、中学生がよく自転車で通っています。あそこには保育園もありますから、小さい子どもも歩いています。あそこの所々で農薬を撒いている人がいます。私が散歩中に、農薬を撒いていたら掛かるような所で、自転車のチェーンを直しているのを手伝いました。そこは町道ですので、個人的に農薬を撒くのを禁止できないでしょうか。(宮津団地)

答) なかなか個人の方に農薬を禁止するのは難しいと思います。全部撒いているわけではないと思います。その方のみだだと思いますので、地主の方を調べて少なくするように、お願いしていきます。川ののりに撒いているのなら除草剤でしょうか。どなたか分からないので、できるだけ調べて対処したいと思います。(建設経済部長)

5. 閉会あいさつ

本日は大変お疲れ様でございました。昨年からテーマを決めまして実施させていただいておりますが、今回の2つのテーマは、一番身近で一番大事な話をさせていただきました。これからも、皆様元気で健康づくりに努めていただきまして、明るくて元気な阿久比町にしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。時間になりましたので、これで終了させていただきます。ありがとうございました。(副町長)